

悠久同窓会会誌

悠久

阿南高専悠久同窓会



2022・春
第54号
2022年3月17日発行

発行 阿南工業高等専門学校
悠久同窓会事務局
〒774-0017 阿南市見能林町青木265
印刷 (有)山田印刷所



令和3年11月12日 悠久会 第10回ゴルフコンペ (徳島カントリー倶楽部〈月の宮コース〉)

目次

名誉会長ご挨拶
同窓会会長ご挨拶
学校だより

明日の阿南高専に向けて・学生の活躍 2021
学寮 (明正寮) 便り・一般教養便り・機械コース便り
電気コース便り・情報コース便り・建設コース便り
化学コース便り・広報情報室より・専攻科より

会員だより
近況短信・勝手に書きます! 言いたい放題名作映画紹介 (第7回)
赤い手帖 (31)・たそがれびとの子守唄 ②・With Corona in 2021

会員だより
フランス国土一周 回想録 (1)・郷里への想いを詞に
5年間のアメリカ生活
現役クラブだより
〈体育部〉 テニス部・陸上競技部
〈文化部〉 吹奏楽部・茶道部・プログラミング研究部
支部だより
東京支部・徳島支部
総会のお知らせ



ご挨拶

名誉会長

平山 けい

悠久同窓会会員の皆様には日頃から本校と本校学生への多大なご支援ご協力を賜り心より感謝申し上げます。

コロナ禍の影響は、昨年度と比較すると、学生・教職員共に昨年度のコロナ感染症対策のノウハウを駆使することにより、「学びを止めない」体制と環境が整えられ今年度は減少しています。また、学びの質保証に重点を置いた教育・研究を推し進めることが出来ています。エンジニアを育てる高等教育機関として、教育の質保証はもちろんです。学生の通常の活動を制限せず、学生がワクワク出来る学びの機会を広げるために、でき得る限りの工夫をしながら教職員一丸となって対処している所です。

今年度は、1年ぶりに全国高専体育大会や四国地区高専総合文化祭等が開催され、学生のキラキラと輝く笑顔と活躍が見られました。その他の活動に於いても日頃の成果を発揮し、数多くの受賞を得ることが出来ています。学業も同様です。苦しい中でもコツコツと真摯に継続する学生の姿と意欲に感謝です。本校ホームページでは、その様な学生の真摯な姿や活躍の成果を逐次掲載しております。是非ともご覧頂ければ幸いに存じます。

さて、国立高専2期校である阿南高専は、昭和38年(1963年)に開校し、再来年度60周年を迎えます。一方で、国立高等専門学校としての制度は来年度創設60周年を迎えます。この60年間、高専の卒業生が、エンジニアとして国内外で活躍し、日本の経済成長を進展させ今日まで支え続けて来た大きな貢献は言うまでもありません。令和4年11月には高専制度創設60周年記念事業や記念式典の開催も予定されています。

この60年間の卒業生の活躍や高専教育で培われてきたエンジニア教育のシステムそのものが、ようやく日本国内で認知され、高い評価を頂くようになりました。世の中の流れが非常に速く、5年先が見通せない中であって、エンジニアを育成する高等教育機関として地域に対する大きな責務を果たして行かなければなら無いことには変わりありません。しかし、地域社会だけではなくアジア諸国から「KOSEN」が認知注目され、日本型高専教育システムが世界の「KOSEN」として、アジア諸国の発展に寄与し始めています。特にタイ・ベトナム・モンゴルへは、国策として文科省が定める「KOSEN」エンジニア教育推進重点3カ国として展開しています。本校もその一翼を担い、タイ国王立チュラポン王女ハイスクールからの留学生の受け入れ、また、タイ国に設立された2つの日本型KOSENの

連携協力校として連携し、アジア諸国のこれからの担う高度エンジニア人材育成のための教育推進の役割を果たし始めています。これに伴い、本校の学生・教職員のグローバル力の強化も推し進められています。

もう一方では、60年の時を経て、その教育に重要な役割を果たしてきた校舎や寮の老朽化が著しくなっています。学生の安全を脅かすような老朽化が見られる部分もあり、その解消と改善のため、今年度より国立高専施設整備5カ年計画が動き始めています。幸いなことに本校は、上下水道等のライフラインに関しては昨年度末に全て完了しています。本校が、地域に対する大きな責務を果たすため、今後、5カ年計画で施設整備をする際には、「高専コモンズ」の考え方のもと整備しなければなりません。すなわち、本校施設設備が、本校の学生や教職員のためだけのものではなく、地域社会や他の教育機関および他高専等に開かれた施設であるという考えのもと施設整備を計画しています。5年間で適切な予算を確保しながら、老朽化の激しい寮・校舎等から順次改築が行われる予定です。どうぞご期待下さい。

その他、文科省が推進する2040年に向けた高等教育機関の目指すべき姿に対応するため、徳島県の高等教育機関としては初めて本校が、「数理・データサイエンス・AI教育プログラム(リテラシーレベル)」に文部科学省より認定されました。デジタルを活用した高度化プランへの対応とDX化が進展する社会を分野に関わらず牽引できる人材育成にさらに力を入れてまいります。

昨年度の本寄稿で本校組織としての課題として挙げていた研究力推進と専攻科の充実に関しても大きな進展が見られています。大学編入の滑り止めとして専攻科を選択する現状が解消されつつあります。低学年から専攻科への進学を目指す学生が増え、魅力有る専攻科を組織として整えるためにも教員の意識が変わりつつあります。また、高度化研究推進連携のためのリサーチユニットが本年度から発足し始動しています。研究意欲を持つ教員グループが分野を超えて連携し、リサーチユニットを組むことで研究力強化や予算獲得を目指し、精力的に活動を始めています。このリサーチユニットは、今後本校の組織としての教育力・研究力の向上および専攻科の充実大きく寄与するものと大きな期待を寄せています。

例年行われている同窓会総会や支部会等の開催が見送られ、皆様方に叱咤激励を直に頂く機会のないまま2年近くが経過しようとしています。コロナ収束の折には、是非とも皆様方とお目もじする機会が得られればと願っております。

感染力が異常に高いオミクロン株の出現と変異に世界が振り回されています。蔓延しないことを願いながら、同窓会会員の皆様方のご健勝を心より祈念致します。

今後も教職員一同精一杯努力を続けて参ります。変わらぬご支援とご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



再開、 再会を願う

同窓会会長

横手 久典

新年明けましておめでとうございます。爆発的な感染力を持つ変異株が猛威を奮う昨今、皆様方におかれましては、それぞれの分野でのご活躍また、ご健勝のこととお慶び申し上げます。日本にコロナと称する魔物が上陸して3年目の春を迎えようとしています。2年間、同窓会として活動はままならず現在に至っていることにつきましては、会長として汗顔の至りであり、忸怩たる思いであります。だんだんと弱毒化している変異株への3度目のワクチン接種によって、季節性流行風邪扱いになってくれることを願い、本年度の同窓会活動を再開する準備を進めていきたいと思っております。皆様に喜んでいただける同窓会活動を実施し、組織を盤石な形にしていくのが私の役目であることを強く思うものであります。

昨年、悠久同窓会のホームページを立ち上げ、同窓会の活動内容や同窓会会誌「悠久」の閲覧や、学校情報など配信しております。このHPを各クラブや各クラスごとの集まりなどの連絡網に活用していただければ幸いかと存じます。来年、阿南高専は創立60周年を迎えます。同窓生も現在7,693名を数える同窓会となっております。

多くのOB、OGの方々に積極的にご活用いただき、より多くの同窓生の絆を深めていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

さて、コロナ禍のなかでも昨年は高専OB、OGとして誇るべき明るいニュースがございました。超小型衛星「KOSEN-1」が去る11月9日にイプシロン5号機に搭載され打ち上げられました。1時間後ロケットの最終段から切り離され、上空500キロメートルで地球を90分で周回することに成功しました。全国10の国立高専（高知、群馬、徳山、岐阜、香川、米子、新居浜、明石、鹿児島、苫小牧）がその役割を分担し、衛星の開発に成功に導いたのです。大学のような航空宇宙工学を専門に学ぶ学科のない国立高専が機械工学・電気工学・情報工学など宇宙開発に必要とされる専門的な知識や技術を学べる環境にあること、そして実現できることが証明されたのではないのでしょうか。これをきっかけに宇宙開発に高専生が大いに携わり活躍する姿を期待するものであります。「KOSEN-2」「KOSEN-3」と次々と打ち上げられる予定になっており、阿南高専も参画していくものと期待しております。このように高専の活躍ぶりを東大の松尾教授は、「高専はニッ

ポンの宝。よくぞこのような教育システムをつくってくれた。」と大きな評価をしています。また、ある新聞には「全国にくまなく配置されている高専は地域に根付いた学び舎でもある。温かい心とクールな頭脳で身近な社会問題を解決する術（すべ）を持つ」と。また、高専機構の谷口理事長は高専生を「ソーシャルドクター（社会のお医者さん）」と称し、そのドクターは起業へと新たな世界へと踏み出す可能性を秘めていると大きな期待を持たれています。

冒頭にコロナの話をしたしましたが、いろいろな学生生活を規制される中、わが母校の学生はコロナ禍の中、工夫を凝らしながら学生としての本分を果たすべく頑張っております。スポーツでは、四国高専大会はもちろん高校総体、全国高専大会でも優勝者を輩出、またACTフェロシップと連携し、人間ロボット「Pepper」を用いた出前授業を阿南市内の小学校で実施、ロボットを通して“ものづくり”に興味を持ってもらおうという試み、また高専OBの経営者による「ACT起業塾」授業や「キャリア教育」講義そして、日亜化学工業(株)様の御協力を賜る「知財教育」授業など様々な形で高専生活を充実させております。

来年4月には、新しい高専「神山まるごと高専」が開校される予定です。教育方針は従来の高専とは違うようですが、同じ高専として互いに切磋琢磨しながら活性化していくことになっていくでしょう。我々といたしましても神山高専のパワーを見習い、同窓会活動も活性化していきたいと感じております。

学校側もこれからの高専のあるべき姿を校長や先生方はじめ職員の方々も模索しております。本年の入試に関しても推薦入試と学力入試の割合を80:80から100:60にして、エンジニアを目指すより多くの生徒が入学できるようにいたしました。変貌し続ける社会、疲弊しがちな世の中を尻目にわが母校も創造と変化をこれからも繰り返していくのだらうと思います。私たち同窓会もACTフェロシップや後援会と連携し、サポートしていきたいと思っております。当然、同窓会悠久としての役割（同窓会会員相互の懇親を深める）もしっかりと企画してまいる所存であります。関東・関西・徳島支部もコロナで懇親を深めることができない状態が続き、ご苦勞をお掛けしております。徳島支部はかろうじてゴルフコンペを何とか開催しておりますが、夜の懇親会はできずしております。8月12日の悠久同窓会の総会はなんとしても開催し、活動の再開そして皆様との再会を果たしたい、そう強く願うものであります。どうか、皆様に於かれましてはご自愛いただき是非、総会では爽快にお会いすることをお願い申し上げ、私の挨拶とさせていただきます。

学 校 だ よ り

明日の阿南高専に向けて

教務主事

坪 井 泰 士

悠久同窓会員の皆様、新春のおよこびを申し上げます。情報化社会は、今後、多様なデータを処理・分析し、そこから新たな価値やサービスを創造する時代へと進みます。専門の知識・スキルを用いて社会の課題を発見・解決するには、数理・データサイエンス・AI能力が必須になります。令和3年6月30日、本校教育は文部科学省により、「数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）」として認定されました。これをふまえ、本校教育の高度化をさらに進めます。

さて、昨年度にくらべ今年度はコロナ禍の影響は少なく、遠隔授業は1週間程度だけで対面授業を実施しています。この対面授業は、昨年度の長期の遠隔授業で作成した授業コンテンツを活用するなど、ハイブリッド授業（ブレンド型）として実施しています。学びの場を、教室から自宅や寮へと拡大しています。先輩が後輩を育む仕組みも定着してきました。学寮における勉強会に加え、教室においても後援会の支援のもと先輩学生が低学年生の補講を支援しています。

グローバルに活躍できるエンジニアの育成に向け、国際交流室をグローバル推進室にかえ、留学生と日本人学生の交流活性化、DMM英会話などを活用した英語力の向上、1・2年生のLHRでの留学生紹介やOG特別講演を行っています。また、高専機構のタイ高専プロジェクト校に選定され、令和4年度には新たに5名の留学生（タイ4名、ラオス1名）の受け入れを予定しています。

令和4年度入学検査では、これまでの入学検査成績と入学後の成績などについてIR分析を行い、「推薦による選抜検査（推薦選抜）の定員」を拡大しました。これまで、推薦検査では、創造技術工学科定員160名の半数80名を定員としてきました。ところが、各中学校から推薦された生徒は優秀で、この推薦検査で不合格となった場合でも学力検査の上位で合格することがわかりました。このことから、推薦検査の定員を20名増やし、100名としました。徳島県中学校長会による調査によると、阿南高専を志望する中学生数はここ10年でもっとも多数となっています。

本校が主催する企業研究セミナーは、昨年度に引き続き遠隔での実施となりました。12月11・12日に、Zoomにより開催しました。企業（約250社）と学生（4年生、3年生、専攻科1年生）がリモートでつながり、企業から

の就業内容などの説明ののち学生との質疑を行いました。また、OB・OGにビデオレターを送ってもらい、学生と共有しました。

学生の学びと安心安全をこれからも大切にし、学生が社会で活躍できるためのたしかな学力を培える阿南高専であるよう、今後とも努めて参ります。

この文章を綴っている12月、新型コロナウイルス感染者は少なく、制限緩和がなされ始めています。一方、感染力の強いオミクロン株ウイルスへの懸念があります。みなさまにおかれても、ぜひご自愛ください。

令和4年が、皆様と阿南高専にとってより良き一年となりますように。

学生の活躍 2021

学生主事

錦 織 浩 文

昨年度はコロナ禍のため多くの競技が中止となりましたが、今年度は新型コロナウイルス感染防止対策を講じ状況を見ながら各種大会が開催されました。学生の主な活躍を掲げます（ここでは原稿締切の関係で12月末までの成績。より詳細は本校ホームページをご覧ください）。このうち、陸上女子800mで3C黒田 凜さん、バドミントン男子シングルスで3C井上礼嗣さんがインターハイに出場しました。

○徳島県高等総合体育大会（6月）

水 泳	男子 100 m 平泳ぎ	優 勝	炭谷史皇 (1年)
	男子 200 m 平泳ぎ	優 勝	炭谷史皇 (1年)
	男子 100m バタフライ	優 勝	松本直大 (3C)
陸 上	男子走高跳	第 1 位	大前雄三 (3M)
	女子 800m	第 1 位	黒田 凜 (3C)
	女子 1500m	第 1 位	黒田 凜 (3C)
	男子八種競技	第 1 位	森 麗央 (3M)
バドミントン	男子学校対抗戦	準優勝	
	男子シングルス	準優勝	
			井上礼嗣 (3C) ほか
柔 道	男子 60kg以下級	第 3 位	石川聖和 (1年)
バレーボール	男子の部	第 4 位	

○四国地区高等専門学校体育大会（7月）

ソフトテニス	女子ダブルス	第 2 位	
	男子団体	準優勝	
剣 道	女子	第 3 位	山尾心那 (2E)
柔 道	男子無差別級	第 1 位	楠 尊 (4I)
水 泳	男子100mバタフライ	第 1 位	松本直大 (3C)
	男子 50m 自由形	第 1 位	松本直大 (3C)
	男子 100m 自由形	第 1 位	鈴江陸来 (2M)
	男子 200m 背泳ぎ	第 1 位	松本直大 (3C) ほか

- 陸上 男子砲丸投 第1位 坂野翔哉 (4C)
 男子円盤投 第1位 坂野翔哉 (4C)
 女子800m 第1位 黒田 凜 (3C)
- 四国高等学校選手権 (7月)
 水泳 男子100mバタフライ 第2位 松本直大 (3C)
- 全国高等専門学校体育大会 (8月～12月)
 テニス 女子シングルス 第3位 宮内優衣 (1年)
 女子ダブルス 準優勝
- 陸上 女子800m 第1位 黒田 凜 (3C)
 女子3000m 第3位 黒田 凜 (3C)
 男子砲丸投 第1位 坂野翔哉 (4C)
- バドミントン 男子シングルス 第3位 井上怜嗣 (3C)
 水泳 男子100mバタフライ 第1位 松本直大 (3C)
 男子200m背泳ぎ 第3位 松本直大 (3C)
- 徳島県高校弓道新人学年別選手権大会 (第1学年の部) (10月)
 男子個人 第3位 森 悠生 (1年)
- 徳島県高校新人テニス大会 (10月)
 女子シングルス 準優勝 宮内優衣 (1年)
 女子ダブルス 準優勝
- 徳島県高校新人柔道選手権 (10月)
 男子個人 60kg以下級 第3位 石川聖和 (1年)
 男子団体 第3位
- 全日本バレーボール高等学校選手権大会徳島県代表決定戦 (11月)
 男子の部 第3位
- 四国地区高専英語スピーチコンテスト (11月)
 プレゼンテーション部門 第1位 森 ひなた (5Z)
 第2位 山本泰生 (4M)
- 徳島中長距離記録会 (12月)
 女子3000m A組 第1位 黒田 凜 (3C)
- 四国地区高専総合文化祭 (12月)
 吹奏楽 優良賞 吹奏楽部
 絵画 優秀賞 今井美嘉 (1年)
 書道 優秀賞 橋本日菜子 (2AE)
- 高専ロボコン、プロコン、デザコンは今年度もオンラインを取り入れての開催となりました。ロボコンでは四国地区大会で企業賞を受賞、プロコンでは課題部門で敢闘賞を受賞しました。SMART-U18部門・一般部門大会にはLEGO研究会から3チームが参加しました。
- 愛好会では、サーフィン各種大会で優秀な成績を収めた2M鳥潟一太さんが全日本サーフィン連盟 (NSA) SHORTBOARD ジュニアカテゴリー1位にランクされました。2M伊達猛人さんはボウリング国体四国ブロック大会にて優勝し、三重国体の出場権を獲得しました (国体はコロナ禍のため中止)。また、全国高校eスポーツ選手権決勝大会に本校eスポーツ研究会メンバーで編成されたチームが出場し第3位となりました。
- 最後に蒼阿祭について。今年度はコロナ禍のため外部からの入場なし、模擬店なしの学内限定で名称を高専祭

2021として行いました。11月5日は前夜祭としてリクリエーション (キックベースボール、リレー) を行い、6日はフェニックス広場にて軽音野外ライブ、カラオケ大会、ストリートダンス、ストリートピアノ、吹奏楽などの公演、室内にて軽音LIVE配信、eスポーツ大会、写真・書道・鉄道研究会展示、演劇動画公開、落語公演、茶道部お茶会、ビブリオバトルなど。また、ACTフェロシップからスパーダーマシン (株GF) の展示公開をしていただきました。学生の文化的感覚、創造性、社会性を育み、学生間の親睦を深める、今までにない高専祭になったと思います。

いろいろな場面で学生が活躍できるよう支援していきます。今後ともご理解、ご協力、よろしくお願い申し上げます。

学寮 (明正寮) 便り
 寮務主事
釜野 勝

悠久同窓会員の皆様、令和4年新年あけましておめでとうございます。今年度より寮務主事を拝命しております電気コース 釜野 勝です。よろしくお願いいたします。明正寮では昨年度より新型コロナ感染症対策として、「感染源を持ち込まない」、「感染しない」、「感染させない」をスローガンに食堂や風呂に関する場所と時間指定、マスク着用、換気指導など、様々な取り組みを行ってきました。

今年度は昨年度に引き続き感染症対策を実施したうえで、「コロナが近くにいることを念頭に普段の生活を送る」を新たなスローガンに、寮関係教職員、役員寮生や委員会の寮生と共に、寮生活をサポートしております。感染症対策が施された寮生活を過ごしている寮生は、このような情勢であることも理解してくれ、生活しにくい環境の中で協力し合いながら普段の共同生活を送っています。

さて、このような状況下ではありますが、寮内イベントも少しずつ感染症対策を施したうえで実施しております。例年実施している教養講座 (茶道・華道) ですが、今年度からの新たな試みとして、英会話講座を追加しました。ネイティブスピーカーであるプロワント先生を中心に、国際交流委員と1年生がほぼ毎週開催している講座に参加しています。また、今まで女子のみ対象であった華道講座には、男子寮生も一緒になって参加しています。華道に参加した



華道



茶道

男子寮生からは生け花が楽しかったとの言葉もありました。さらに華道の先生からは男子学生の感性について、女子のみであった今までと違ったものがあり、強さのある生け花になるとお褒めの言葉もいただいております。



校内外清掃活動



春季防災訓練



秋季防災訓練

「映え写真」の3部門の作品を寮生から募集し、寮生及び寮関係教職員が投票を行い、各部門の受賞者を決定しました。さらに、寮内で新型コロナウイルス感染者が発生したと想定した、緊急時寮食訓練も実施しました。全寮生が弁当形式で居室にて食事するといった、初めての試みで、最初は寮食堂業者に1食の提供をお願いしましたが、反省や課題点を洗いだし、修正したうえで3食連続の弁当形式による訓練を行いました。

その他にも、各学年に対して有識者からの特別講演会、低学年寮生に対する寮内勉強会、七夕飾りやクリスマスイルミネーション、書き初め大会なども行い、少しずつではありますが、感染対策を考えたいうで、行事なども工夫しながら実施しています。

外部へのお知らせとしては、阿南高専ウェブサイトのお知らせに行事内容を報告しています。お時間がございましたら、



七夕



クリスマス

ご高覧いただければ幸いです。その他、寮生や寮生保護者さまへの寮生活に関する必要情報は、manabaやマチコミを通じて連絡するようにしています。

最後になりましたが、令和3年度補正予算で2号館改修の内定連絡がありました。来年度、寮生にはご協力いただくことになるかと思えます。

今後も明正寮をよろしく申し上げます。



特別講演（4年生）



特別講演（3年生）

一般教養便り

一般教養主任

藤井 浩美

令和3年4月はコロナ禍2年目の春として新入生161名を迎えスタートしました。年度途中にはオンライン授業が実施されることもありましたが、本年度は概ね対面授業を継続しています。マスクを着用しての授業や昼食時の黙食もすっかり当たり前の日常風景として定着しつつあります。一方で、昨年度は中止となった高専体育大会や四国総合文化祭、そして高専祭（蒼阿祭）など多くの行事が様々な制約を受けつつも開催され、校内には学生たちの笑顔が溢れ、活気が戻ってきた1年となりました。



授業風景（2年）

令和3年度の一般教養の人事について報告いたします。4月に園田昭彦先生が講師に、藤井が教授へとそれぞれ昇任いたしました。園田先生は平成31年度よりキャリア支援室の副室長（進学支援担当）として進学セミナーを担当されています。先生のご尽力もあり、近年では大阪大、九州大などへの編入学試験合格者が続いております。阿南高専若手のホープとしてバイタリティあふれる園田先生の今後の活躍が大いに期待されます。

次に一般教養教員の主な校務について報告いたします。
国語は坪井泰士先生、錦織浩文先生（教科主任）です。

坪井先生 副校長（教務主事）

錦織先生 学生主事

数学は櫛田雅弘先生、田上隆徳先生（教科主任）、山田耕太郎先生、西森康人先生、浮田卓也先生です。

櫛田先生 1年4組担任

田上先生 1年2組担任

山田（耕）先生 2年機械コース担任（学年主任）

西森先生 2年化学コース担任

浮田先生 2年建設コース担任

英語は勝藤和子先生、谷中俊裕先生、プロワント先生、福井龍太先生、藤井（教科主任）です。

勝藤先生 1年1組担任（学年主任）

谷中先生 寮監、2年電気コース副担任

プロワント先生 寮務主事補、1年3組副担任

福井先生 教務主事補、2年機械コース副担任

藤井 一般教養主任、1年2組副担任

理科は松尾俊寛先生（教科主任）、山田洋平先生、園田昭彦先生です。

松尾先生 学生相談室長、2年情報コース副担任

山田（洋）先生 教務主事補、2年建設・化学コース副担任

園田先生 2年情報コース担任

社会は藤居岳人先生、今田浩之先生（教科主任）です。

藤居先生 図書館長、1年3組担任

今田先生 2年電気コース担任

体育は新井 修先生（教科主任）、中島 一先生です。

新井先生 副学生主事、1年4組副担任

中島先生 副学生主事、1年1組副担任

コロナ禍は新しい価値観を探る契機となり、新しい生活様式の導入を促しました。阿南高専でも、学習管理システム（manaba）の積極的活用、授業コンテンツの配信によるオンライン授業と対面授業のブレンド型授業の実践など、新しい学びの様式を確立しようとしています。さらに、令和4年の4月からは本科1年生にタイから留学生を2名迎える予定です。阿南高専の新たな風となりグローバル化の一層の推進に繋がることと思います。我々はコロナの収束をただ待っているわけではありません。コロナ収束後の新しい日常を見据え、豊かな発想力、柔軟な対応力を磨こうと日々精進しています。阿南高専生の今後の活躍を温かく見守っていただければ幸いです。



機械コース便り

機械コース主任

西野 精一

悠久同窓会会員の皆様には、ますますご健勝でご活躍のことと存じます。本年度の機械コース主任を務めさせていただきます西野です。よろしくお願いいたします。

本年度はコロナ禍の中、感染対策に注意を払いながら対面での授業を実施しています。4月には安田武司先生が、つくば市の国立研究開発法人物質・材料研究機構（NIMS）での1年間の研究活動を終え3年担任として復帰されました。カリキュラム変更としては、4年生の機械工学実験において、課題解決教育としてライントレースと障害物乗り越えができる車両の設計製作を行っています。それまでに学んだ、機械設計法や3D-CAD、メカトロニクス、プログラミング技術を活用してグループごとに独自車両の製作に取り組んでいます。従来とは違い、3Dプリンタを活用することで加工工程を削減し、その分機構やセンサーに時間を割いているようです。



機械工学実験



4M 自律走行型
ロボットカー集合

さて今年度の卒業予定者は40名であり、33名が就職、7名が進学予定です。従来よりも就職予定者が多くなっています。求人企業数は、卒業生の皆様のご活躍のおかげで、本年度も20倍を超えており、全ての就職希望者が内定を頂いています。今年度の特徴は、県内企業への就職が増加した点です。具体的には、県内では日亜化学工業、大塚製薬、大鵬薬品工業、大塚テクノ、四国日立、東邦機械工業、パナソニックインダストリアル、泉製作所、山本光学、徳島大学などであり、県外では四国電力、大阪ガス、サントリー、P&G、ダイキン工業、イズミフードマシナリ、東亜石油、大研医器、日立ハイテクフィールドイング、コマツ、明治、プライム プラネット エナジー & ソリューションズ、エネオス、ジャパンコミュニケーション、品質保証機構、クレオ、山崎製パン、川重マリン、富士フィルムメディカル、プレジールとなっています。進学先は、専攻科（4）、千葉大学、徳島大学、豊橋技術科学大学となっています。

また、例年機械コースでは2年から4年の各学年で見学旅行を実施していますが、本年度はコロナ禍の中、4年生

の水力発電所見学のみとなりました。今後、卒業生のみな
さんがご活躍されている会社を見学させていただく機会も
あると思いますのでその際にはよろしくおねがいします。

機械コースは、よりよい教育を目指して教職員一同力を尽
くしていますので、今後ともご支援よろしくおねがいします。



電気コース便り

電気コース主任

中村 雄一

悠久同窓会会員の皆様には益々ご清祥のこととお慶び申
上げます。引き続き電気コース主任を務めています中村
です。よろしくお願いいたします。

まず今年度のスタッフの異動についてご報告します。藤
原健志先生が高専・技科大間の人事交流として4月から
1年の期間で長岡技術科学大学へ赴任されました。また藤
原先生の代替教員として内野翔太先生が任期付助教として
本校に着任されています。内野先生は岡山理科大学大学院
博士課程の学生にも在籍しており、二足の草鞋を履く活動
をされています。年齢も若く、ご自身も学生という立場か
ら兄のように電気コースの学生達から親しまれています。

各教員の活動状況等についてご報告します。松本高志
先生は地域連携・テクノセンター長として、地元自治体・企
業との連携活動の活性化や共同研究の促進に尽力されてい
ます。長谷川竜生先生は教務主事補としてカリキュラム改
定などに携わる一方、徳島県が採択された内閣府事業の運
営において活躍されています。小松 実先生は3E担任や
学生相談室副室長として学生達のメンタルケアに丁寧に対
応されています。釜野 勝先生は昨年度の寮務副主事から
寮務主事になり、学寮のコロナ感染防止対策や環境改善に
取り組まれています。小林美緒先生は1ESの担任として
専攻科生への指導だけでなく、グローバル推進室長として
本校の国際化に努められています。香西貴典先生は昨年度
と引き続き4E担任としてインターンシップの派遣先の調
整から企業研究セミナーの運営まで学生達へのキャリア教
育に熱心に取り組まれました。朴 英樹先生は寮務主
事補および進学担当として、電気コースの学生達へ細やか
な進学相談・指導を行っていただきました。

今年3月の卒業予定者の進路状況についてご報告いたし
ます。卒業予定者のうち4割強が進学し、残りの6割弱が
就職となりました。進学者の数が例年より多くなっていま
す。このクラスはもともと早くから進学を希望するものが
多かったことに加え、コロナ禍のため4年生の時に企業で
のインターンシップが十分に行えなかった影響もあった
と思われる。進学希望者は、阿南高専専攻科（4名）、
九州大学、東京農工大学、徳島大学（4名）、豊橋技術科
学大学（4名）、長岡技術科学大学（2名）の合格を得て

います。一方、就職先企業として、県内では王子ネピア、
大鵬薬品工業より内定をいただきました。また、エネル
ギー・インフラ系として四国電力・四国電力送配電（3名）、
東京電力パワーグリッド、出光興産より、設備系として
NTTファシリティーズ関西、ダイキンエアテクノ、東芝
プラントシステム、成田空港給油施設、フジテック、メタ
ウォーターより、メーカー・製造系としてSUBARU テク
ノ、花王、シオノギファーマ、島津プレジジョンテクノロ
ジー、デンロコーポレーション、パナソニック株式会社ア
プライアンス社よりそれぞれ内定をいただいています。さら
にIT、EC系のNTTデータフロンティア、アマゾン・ジャ
パンからも内定をいただきました。

今年度も技術職員の尾崎貴弥先生（電気電子工学科
OB）が中心になって学生達に資格取得のための支援を行
いました。第2種電気工事士試験には3年生だけでなく、
2年生も多くチャレンジするようになりました。今年度だ
けでも全学年合わせて30名程度の合格者が見込まれます。
また、12月の実技試験前には、すでに電気工事士を取得
している4年生の4名が、後輩たちのために熱心に技能練
習を指導してくれました。

資格取得をアピールし就職活動を有利に進められるよ
う、また企業から即戦力として評価していただけるよう努
力してまいりますので、会員の皆様にもご支援ご協力をお
ねがいいたします。悠久同窓会の皆様の益々のご活躍とご健
勝をお祈り申し上げ、電気コースからの便りとさせていただきます。



第2種電気工事士試験に向けた技能練習



情報コース便り

情報コース主任

福田 耕治

悠久同窓会会員の皆様、今年度より情報コース主任を務
めております福田です。今年度も昨年度に引き続き新型コ
ロナウイルス対応に追われた1年となりました。リモート
授業はほとんどなかったものの、多くのイベントで中止や
縮小、リモートでの開催を余儀なくされました。

学会発表においても、計測自動制御学会四国支部学術講
演会が香川大学主管でリモート開催されました。四国地域

の大学および高専から全 59 件の発表がありました。情報コース本科学生の発表は 18 件と、およそ 30%を占めました。なお、情報コース出身の専攻科学生の発表も 7 件ありました。学校の内外を問わず、これほど多くの学会発表を行っている学科・コースは無いと言えるほど活発な研究活動が実現できていると考えているところです。このほかプログラミングコンテストは、1 チームが全国大会に出場を果たし、敢闘賞を得ています。また、現在 Deep Learning コンテストに出場しており、1 次審査を通過し 2 次審査に入ったところです。任意受験ですが、java プログラミング能力検定では多くの 3 年生が受験しており、2 級合格者は 11 名、3 級合格者は 17 名に及んでいます。

新設科目が実施されました。今年度から、3 年生に「事例研究 1、2」が追加されています。特に「事例研究 2」では、取り組むテーマ・目標を定めて 3 人グループで半年間活動し発表する、探求型実習授業としています。また、最近の AI の基礎技術・知識を身につけるため、来年度には 4 年生で「機械学習基礎」が実施されることになっています。

5 年生の進路状況は、(株)ATEC、(株)FIXER、JT (株)、NEC ソリューションイノベータ(株)、(株)NDK、アスクル(株)、(株)アステック、木村情報技術(株)、(株)キーマネージメントソリューションズ、サントリーホールディングス(株)、四国電力(株)、(株)ジャパンコミュニケーション、(株)ソフトサービス、ダイキン工業(株)、テルモ(株)、(株)富士通エフサス、(株)メンバーズ、モラブ阪神工業(株)、(株)レーザーシステム、より内定を頂き、豊橋技術科学大学、徳島大学、本校専攻科、などに合格しています。

各先生の近況を紹介します。田中先生は、引き続き副校長として直接学校運営に奮闘されています。杉野先生は、本年度新設されたリサーチユニットのトップとして、教員全体の研究活動活性化に取り組んでおられます。吉田先生は、5 年担任および就職担当として、学生の卒業・就職に向けた活動を助けつつ、プロコンの指導も継続して担当されています。福田は、主任および 3 年生の担任を担い、新設科目「事例研究 1、2」の主担当をしています。岡本先生は、専攻科長補佐として専攻科学生を含めた運営全般を担っています。福見先生は、本年度より広報情報室長として、徳島阿波踊り空港でのロボコンロボット展示・実演、大型商業施設での広報イベント、放課後オープンキャンパスの実施などの新規の取り組みを積極的に展開しています。安野先生は、4 年生担任および学生相談室相談員として、学生の勉学面でのフォローや相談対応、さらにはスクールカウンセラーとの連携による学生のフォローなどに取り組んでおられます。平山先生は、キャリア教育およびコーオプ担当として、学生のインターンシップ実施や進路に関わる指導をされています。太田先生は、今年度 10 月 1 日付で准教授に昇格されました。学生主事補、進学担当、を中心に校務にたずさわっていただきながら、来年度から実施する新科目「機械学習基礎」の担当をはじめ、コース



内での新しい取り組みを推進する中核として活躍が期待されるところです。

以上のように、情報コース教員一同、教育の一層の充実を図りつつ活発に研究に取り組んでおります。悠久同窓会会員の皆様におかれましては、今後ご支援ご協力をお願いいたしますとともに、さらなるご健勝とご発展をお祈り申し上げます。

建設コース便り

建設コース主任

吉村 洋

悠久同窓会の皆様には、ますますご健勝でご活躍のことと拝察申し上げます。本年度の建設コース主任の吉村です。どうぞ、よろしくお願いいたします。

建設コース内のご報告は、まず、教員の近況についてです。本年度の春に井上貴文先生をお迎えし、また、松保重之先生が嘱託教授として再雇用となりました。このような中でコース内の主な校務を挙げますと、堀井克章先生が 3C 副担任、森山卓郎先生が 3C 担任、加藤研二先生が 5C 担任と就職・進学担当、長田健吾先生が副教務主事と専攻科長補佐、川上周司先生が 4C 担任、多田 豊先生が学生主事補、井上貴文先生が寮務主事補を、それぞれ担当しております。なお、令和 4 年 1 月 1 日付で、川上先生が長岡高専に転任となり、4C 担任を堀井先生が引き継いでおります。また、笹田修司先生は第 18 回全国高等専門学校デザインコンペティション（通称、デザコン）に今年も指導教員として参加されています。このデザコンは令和 6 年度に本校が主管校となって開催予定であり、その準備を進めております。

今年 3 月卒業予定の 5C の進路状況は、県内就職が 4 名、県外就職が 12 名、進学が 6 名となっております。就職の内訳として、県内就職先はエスシー企画(株)、(株)スバル設計、(株)はなおか、(株)誉建設となっており、県外就職先は国土交通省、鹿島クレス(株)、(株)鴻池組、白谷工房、玉野総合コンサルタント(株)、(有)ナニワ建装工業、(株)西日本高速道路、西日本高速道路エンジニアリング関西(株)、原田建設(株)、(独)水資源機構、三菱地所コミュニティ(株)、(株)四電技術コンサ

ルタントです。また、進学先は本校専攻科（2名）、長岡技術科学大学（2名）、豊橋技術科学大学、徳島大学です。学生の就職に関しては、悠久同窓会会員の所属されている企業からも求人をお願いしており、新型コロナウイルス感染症の影響もそれほど関係なく、良好な求人状況が続いております。

本年度の建設コースの行事ですが、新型コロナウイルスの影響もありましたが、3C・4Cへ徳島県技術士会による出前講座や2C・3Cの徳島南部自動車道吉野川大橋（仮称）工事現場見学を行うことができました。学生にとっては、自分自身の将来を考える非常に大切な機会となりました。ご支援いただいた悠久同窓会のみなさまに厚くお礼申し上げます。

最後になりましたが、今後もより良い教育を実施させていただきたく所存です。これまで同様、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。末筆ながら、悠久同窓会のみなさまの益々のご健康とご活躍を祈念いたします。



化学コース便り

化学コース主任

中村 厚 信

悠久同窓会会員の皆様には、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。今年度より化学コースの主任を務めております中村です。どうぞよろしくお願いいたします。

化学コースは昨春、三期目の本科卒業生を送り出しました。今までの卒業生同様、県内外の企業等に就職した学生はそれぞれの就職先で活躍し、また大学や専攻科に進学した学生も、引き続き勉学と研究に励んでいます。さらに専攻科応用化学コースも、皆様のご協力を頂き、第一期生を無事、修了させることができました。第一期生は学位授与機構による小論文試験を受けましたが、全員合格して学位が授与されました。現在就学中の2年生も先日、小論文試験を受け、今は結果待ちの状況です。今年度から特例適用専攻科の専攻区分「応用化学」の申請ができるようになりましたので申請を行い、先日、適の結果が通知されました。これにより、現在の1年生か

らは他コースと同様に小論文試験を受けることなく、学位が授与されることになりました。

ここで、化学コースの近況についてご報告させていただきます。先ず人事ですが、小西智也先生が令和3年1月付で教授に、鄭 涛先生が同じく令和3年1月付で准教授に昇任されました。さらに上田康平先生が、令和3年4月付で着任されました。次に今年度の化学コースにおける主な担当ですが、西岡 守先生は化学コースの産学連携、吉田岳人先生は5年生担任、大田直友先生は3年生担任、小西智也先生は専攻科長、大谷 卓先生は学生主事補と就職担当、鄭 涛先生は教務主事補、上田康平先生は寮務主事補と3年生副担任、杉山雄樹先生は4年生担任と進学担当をしております。なお、一森勇人先生は令和4年3月末でご定年を迎えられます。

第四期生21名の進路状況をご報告させていただきます。就職者は15名で、大塚製薬(株)2名、森永乳業(株)神戸工場2名、(株)大塚製薬工場、東亜合成(株)、大鵬薬品工業(株)、出光興産(株)、DIC(株)、日本たばこ産業(株)、三菱ガス化学(株)、住友化学(株)、ユニチカ(株)、キヤノンメディカルシステムズ(株)、西部日警(株)より内定を頂きました。また進学者は6名で、本校専攻科応用化学コース、九州大学工学部応用化学科、岡山大学理学部化学科、神戸大学理学部化学科、大阪大学自然科学科応用化学科目に進学する予定です。従来同様の進路確保ができたことは、化学コース卒業生、さらには悠久同窓会会員の皆様の多大なご支援・ご協力の賜物です。この場をお借りして心より感謝申し上げます。

今年度も新型コロナウイルスの感染が懸念されていましたが、夏休み後の一時期を除いてどうか対面授業を行うことができています。また中学生一日体験入学も、従来とは少し違うスケジュールでしたが実施することができ、コロナ禍以前の状況に戻りつつありました。しかし現状ではまた、オミクロン株の感染拡大が懸念され、今後の授業や卒業式がどのようになるかが不透明な状況となっています。このようなときでも、学生達は勉学や課外活動、また就職・進学の準備を頑張っていますので、昨年同様のご協力をお願い致します。

教育や研究では、地域の企業、機関、団体様、及び多くの方々のご寄附により建てられた創立50周年記念材料工学棟の中の装置類や、日亜化学工業(株)様のご寄附による



中学生一日体験入学

NMR（核磁気共鳴）装置を使わせて頂いています。なおこれら評価・分析機器類は、地域企業等の方々がご利用して頂くことも可能です。

最後になりましたが、化学コース教職員一同、教育・研究活動を一層、充実させていきたいと思っておりますので、ご支援ご協力をお願い致しますとともに、悠久同窓会会員の皆様の益々のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。



広報情報室より

広報情報室長

福見淳二

悠久同窓会会員の皆様には益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。本年度から広報情報室長を務めさせていただいております情報コースの福見です。よろしくお願いいたします。

本年度も昨年度同様にコロナ禍での制約を受けながらも教職員の方々の協力のもと広報活動を継続することができました。毎年6月に実施している高専説明会は感染状況を考慮し7月に延期となりましたが、新型コロナウイルス感染防止対策を徹底し徳島会場、淡路会場で無事開催することができました。特に、徳島会場では3部制を導入し合計174名もの中学生および保護者が来場するなど、阿南高専への関心の高さを再確認いたしました。

8月に実施している中学生一日体験入学は、感染防止対策のため午後からの半日に変更し、体験時間を短縮するなど様々な検討を重ねて無事実施することができました。2日間で中学生、保護者及び教員444人の参加があり、参加者は各コースに分かれ、それぞれ希望する講座を受講しました。参加中学生からは、「先輩や先生方がとても親切に接してくれ、阿南高専のことを丁寧に教えてくれた」、「コロナ禍の中、このような機会がありうれしかった」「今回参加し、より高専に興味を持った」といった感想が寄せられました。阿南高専の魅力発信のためには、阿南高専に来て見て感じてもらうことが一番良いとの方針で今後も広報活動を進めていきたいと考えています。

9月～11月には感染予防対策を徹底し入試説明会（徳島会場、西部会場、淡路会場、阿南会場）を実施しました。入試説明会全体ではのべ328名もの参加があり、11月時点での阿南高専希望者数は過去10年間で最も多くなっています。10月～12月には放課後オープンキャンパスを実施しました。これは、本校学生の案内で中学生や保護者が平日放課後の学生活動を見学する試みで、本年度が初めての取り組みです。募集後すぐに定員が埋まる状況であり中学生や保護者のニーズも高いため、来年度は年間を通じて実施する予定で、阿南高専に来て見てもらう機会を増やしたいと考えています。

地域でのイベントも積極的に参加、開催しています。本年度は7月にイオンモール徳島でロボット研究部の学生がロボコン用に作成した阿波踊りロボット連の演舞およびものづくり体験イベントを実施し、8月のお盆期間には徳島阿波おどり空港で阿波踊りロボットの展示と解説を行い、阿波踊りロボットが帰省客を出迎えました。次年度以降も、各施設と連携してイベント開催を進めていきます。

令和4年度の高専説明会は5月にイオンモール徳島での開催となります。同時に本校学生主体のものづくり体験講座も実施する予定です。新型コロナウイルス感染状況が落ち着きましたら、ぜひ後輩の元気な姿を見に来場いただけたらと存じます。阿南高専の魅力をアピールするイベントなどを積極的に開催していきますので、今後ともよろしく願いいたします。



専攻科より

専攻科長

小西智也

悠久同窓会の皆様におかれましては益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。令和3年度より専攻科長を拝命しております小西と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。

専攻科は、一昨年度より創造システム工学専攻の1専攻として改組されており、現在、機械システムコース（AM）、電気電子情報コース（AE）、建設システムコース（AC）、応用化学コース（AZ）の4コースから構成されています。新設された応用化学コースの学生も含め、昨年度その第1期生が修了しました。

創造システム工学科の1年生はAMが6名、AEが9名、ACが1名、AZが1名の17名が在籍し、1AM・1AC・1AZの担任は西本浩司先生、1AEの担任は小林美緒先生が担当しております。また、2年生はAMが6名、AEが10名、AZが3名の19名が在籍し、2AM・2AZの担任は長田健吾先生、2AEの担任は岡本浩行先生が担当しております。

1年生は、創造設計工学演習でコースをまたぐ幅広い学習に取り組み、9月からの3ヶ月のインターンシップ期間ではこれまでの学習内容をふまえて企業や大学での実践的な活動に取り組みました。1/14には学生のインターンシップ報告会がオンラインで開催されました。ご多用のところACT企業をはじめ多くの国内企業、大学、研究所に受け入れていただき、また感染対策しつつ懇切丁寧なご指導をいただき深く感謝しております。

2年生は、これまで高専で学んできたことを総まとめ科目で省察するとともに、その集大成である特別研究論文を完成させました。感染対策のため、特別研究発表会もオン

ラインでの開催です。また、2年生の進路は、徳島大学大学院へ1名が進学し、日亜化学工業(株)、四国化工機(株)、(株)ダンクソフト、ファナック(株)、(株)日立ハイテクソリューションズ、(株)メイテックフィルダーズ、オークマ(株)、(株)ダイセル、富士ソフト(株)、京セラコミュニケーションシステム(株)、(株)ジャパンコミュニケーション、(株)ソフトサービス、(株)メンバーズ、住友化学(株)、東亜合成(株)などの県内外の企業に就職することになっています。高専で学んだことを胸に、各分野でいろいろな人と関わり合いながら、大いに活躍することでしょう。

専攻科は10年後を見据え、研究力と人間力を兼ね備えるエンジニアを目指すべく、「高専ならではの共創教育」の場を実現したいと考えています。すなわち、専攻科生が他の学生、教員、地域技術者と密接に関わり合いながら、研究を軸とした学びを実践します。そのために、専攻科生が教員や地域技術者とともに一人の研究者として研究活動に参加できるよう、今年度学内で発足したばかりの「リサーチユニット」の一翼も専攻科が担っています。

また、これまでの学習を発展させたい、さらに研究を進めたいという本科生が専攻科への進学を目指してくれるように、広報にも力を入れています。たとえば、特別研究論文の閲覧コーナーを設置したり、学修総まとめ科目履修計画書発表会、特別研究発表会をはじめ全学生向けにライブ配信したりしました。

引き続き、未来のエンジニアや研究者を目指す学生の学習・研究を全面的にサポートしてまいりますので、ご支援よろしくお願い申し上げます。

最後になりますが、悠久同窓会の皆様のますますのご活躍を祈念いたします。



専攻科特別研究論文閲覧コーナー



特別研究中間発表会のライブ配信

会 員 だ よ り



近 況 短 信					
昭和43年度機械	森	岡	和	美	

悠久同窓会会員の皆さまお元気ですか。

昨年は、新型コロナウイルス感染拡大で大変な一年でした。年末には変異株オミクロン株も現れました。早くコロナ禍が終息し、平穏な日常が戻ることを期待したいと思います。

今年も、例年同様、最近の新聞投稿作品から抜粋し、近況報告とします。

会員皆さまのご健勝とご多幸をご祈念申し上げますとともに、悠久同窓会の益々のご発展をお祈りします。

【通信Ⅰ】令和3年1月6日 記

リーダーは襟を正せ

どうも長く知事の座にいと県民の感覚とはズレが生じてくるようだ。全国知事会が昨年11月23日「新型コロナ第3波警戒宣言」を取り纏め、協力を呼び掛けているさなか、12月4日に、会長の飯泉知事自身が県職員・県議ら46人との多人数会食をした事実が報じられた。

知事会の会長として、国民や県民に5人以上の多人数での会食の自粛や年末年始の地域間移動を控えるように呼びかけている最中の出来事である。

1月5日の臨時会見で、この件について飯泉知事は、「感染対策は会場でもガイドラインに沿ってきちんと行われていた。また当時、徳島は全国的にみても感染者数が少なく、適切であった」との認識を示した。

この知事の見解を聞いて、果たしてどれだけの県民が、「なるほどそういう事か。納得した」と言うだろうか？県民には自粛要請しておきながら、自身の行動は色々理由を並べて正当化しようとする。まったくリーダーの何たるかの自覚が無いと言わざるを得ない。率先垂範すべきリーダーがこのような有様で、県民の理解を得られるのだろうか？「李下に冠を正さず」「隗より始めよ」というが、リーダーは、キチンと襟を正して事に当たって欲しいものだ。

【通信Ⅱ】令和3年1月9日 記

コロナ患者を犯罪者扱いするな

「コロナ患者の入院拒否で刑事罰検討 感染症法改正でー政府」、1月9日付、徳島新聞の見出しに唾然とした。内

容は、政府が新型コロナウイルス対策を強化する感染症法改正をめぐり、感染者が入院拒否した際に刑事罰を科すことを検討しているということのようだ。また保健所が感染ルートの把握のために行う聞き取り調査でもプライバシーを理由に行動歴などを拒否した場合も刑事罰を設ける方針のようだ。

「刑事罰」は、刑法などで定められた犯罪行為を行った人物に対して、裁判で科せられる罰とある。新型コロナウイルス感染そのものを刑事罰の対象としたものではなく、入院拒否などの行為に対する罰則だが、感染者⇒容疑者⇒犯罪者という思考回路に繋がりがやすい。そしてそれは感染者に対する偏見や中傷を助長し、その人の人権侵害にも繋がりがかねない。

医療機関もひっ迫し、コロナ患者の受入も余裕がなくなっている現状で、政府が行うべきは、医療機関受入体制強化と感染拡大防止であって、罹災者を罰することではないはずだ。コロナ患者を犯罪者扱いするようなことを法令化してはならない。

【通信Ⅲ】令和3年1月22日 記

日本は核廃絶に舵を切れ

史上初めて核兵器を全面的に禁止する「核兵器禁止条約(核禁条約)」が50カ国・地域で効力が発生、22日発効した。条約は、あらゆる核兵器の開発、実験、生産、保有、使用を許さず、核兵器そのものを非人道的で不法と見なすものである。しかしながら米英仏口中の核保有国や米の「核の傘」に依存する日本は不参加である。

この条約の前文には核兵器使用による被害者を意味する「ヒバクシャ」という日本語が記され、その被害者の苦痛にも留意すると明記されている。そして世界の被害者支援を行うことも定めている。戦後75年間の長きに亘る「ヒバクシャ」の核兵器廃絶へのゆるぎなき思いがやっと実を結んだ瞬間である。

しかしながら世界で唯一の戦争被爆国としての日本が、米の核抑止力に依存するがあまり、この条約を批准しないことは国際社会からも奇異の目でみられていることも事実である。ただ条約の発効に時を合わせるように米国でも「核兵器なき世界」の理念の継承を表明するバイデン新政権が発足した。日本政府はこの好機をのがすことなく米国に働きかけ、核兵器廃絶の流れを日米で後押しする体制づくりに舵を切るべきである。それが唯一の戦争被爆国としての日本の国際社会での立ち位置であり、今後ますます影響力

が強くなるであろう「核なき世界」から信頼を得る道でもある。

【通信Ⅳ】令和3年1月30日 記

国会議員は国民の痛みを感じているか

1月27日、参議院予算委員会で驚くべき発言があった。コロナ禍にあえぐ国民に「再度の給付金を」と求める野党に対し、拒否し続けた菅 義偉首相は、「最終的には生活保護がある」と言い放った。国民に寄り添った政権運営を公言してはばからない政治家の発言とは思えない。そういう方が出ないようにするのが政治ではないのか。

民間の支援団体の話では、生活困窮支援相談会には、若い人も来られて、所持金が数百円の人もいるとのことだ。そういう方に生活保護を勧めても、「国のお世話になるのは申し訳ない」「もう少し頑張って何とかしたい」と断る人も多いという。生活保護は結構ハードルが高く、特に扶養照会（親族に申請者の扶養の可否の問合せ）がネックになっているようだ。親族に困窮状況を知られたくないという意識が働くようだ。

翻ってコロナ禍の救済策を論議する国会議員は、歳費が129万4900円/月（1554万円/年）、期末手当が635万円、文書通信交通滞在費が100万円/月（1200万円/年）、合計3389万円/年を税金から貰っている。コロナ禍で歳費は2割削減されるが、期末手当などは削減されることなく全額支給されている。これで国会議員は、国民の痛みが本当に分かっているのだろうか。

緊急事態宣言下の深夜に銀座のクラブをハシゴしてぶらつくようでは、いくら自粛を求めても国民が素直に従うには無理がある。

【通信Ⅴ】令和3年3月19日 記

多様性を認める法整備必要

同性間の結婚を認めず、国が法的保護を一切与えないのは不合理な差別で、法の下での平等を定めた憲法14条に違反する。同性パートナーとの法律婚を望む人たちが起こした裁判で、札幌地裁がそんな判断を示した。確かに少数者の基本的人権を尊重し、時代の大きな流れにも沿った判決のようにも思える。

一方、憲法24条では「婚姻は、両性の合意のみに基づいて成立する」としており、憲法制定時には、同性婚についてはもともと想定していない事象であった。当然そのことについては触れていない。

婚姻制度を具体的に定めた民法は憲法24条を前提としており、「夫婦」「男女」が婚姻の法解釈の根底にある。民法の同性婚を認めないという規定が「違憲」というならば、その前提である憲法24条の規定そのものが憲法14条に違反しているということになるのではないかと。そう考えれば、憲法24条そのものの見直しが必要になってくるのではなかろうか。

元々想定外の婚姻規定の法的解釈を巡り、「同性婚否定、違憲」うんぬんを裁判で争うことに違和感を覚える。それよりも、多様性重視の社会の大きな流れの中で、国民全体の課題として合意形成されることが求められている。国は同性婚の不平等解消にむけ、法的整備の議論を早急に進めてほしい。

【通信Ⅵ】令和3年4月26日 記

正確に公表し的確な対策を

「えっ、何それ」。新聞を見て思わず言ってしまった。徳島県の新型コロナウイルス感染者が入所する宿泊療養施設の稼働率のことだ。4月23日午前0時時点の宿泊療養者数を172人と発表しているが、内訳は入所者数46人、調整中126人の合計数ということだ。

公表された数字自体も入所者数126人、調整中46人の間違いではないのかと疑ってしまうほど入所者数が少ない。ちなみに宿泊施設は30日時点で旧海部病院と東急イン徳島駅眉山口で計226室ある。24日の会見で飯泉知事は、「入所している人の数だけ出すと（宿泊療養施設）が十分余裕があるように見えてしまう」と釈明しているが、何とも釈然としない説明だ。まったく実態とかけ離れた数字を公表していることに憤りさえ感じる。

うがった見方をすれば、入所者46人に対して調整中126人というのは、いかにも調整作業が遅れていて施設の利用が十分でないとの印象を受ける。そういった指摘を避けるために調整中の人数も含めて公表しているのではないかと勘繰ってしまう。

正確な実態を表す数字をきちんと公表し、それを基本的に的確な対策を実施すべきである。何事においても、まやかしの数字では的確な対策が実施できないことは明白だ。こと人命にかかわる事象でこのようなことが行われていることに疑問を感じる。

【通信Ⅶ】令和3年5月26日 記

地域公共交通の確保に英智を

阿南市の高齢化率の高い加茂谷地区で、介護保険を活用した高齢者移送支援サービスがスタートした。県内自治体で初の取り組みということだ。令和4年度より阿南市の交通困難地区に拡充することを念頭に、来年3月までのモデル事業ということで、阿南市が実施主体となり、地元のNPO法人加茂谷元気なまちづくり会が実施団体となって運営するものだ。

昨年10月地区内の路線バス（大井線）が急に廃止され、代替措置として、その影響を受ける7町地区が該当であるが、利用できるのは「要支援1、2の65歳以上の高齢者限定」で、だれでも利用できる路線バスのようにはいかない。「運転免許を返納したある程度元気な高齢者や学生の通学には利用できない」など、本来の公共交通機関の機能としては不十分である。

当該地区では、同事業の実施団体である NPO 法人が、地域活性化策として移住・就農に力点を置いた活動を展開しているが、移住者の大きな関心は生活環境や自然環境といったこともあるが、子育て、教育に関する関心が高い。特に高校になると路線バスがなくなり、どうやって通学すればよいかと心配している。

地域における公共交通インフラ確保は、地域社会の維持・発展に必要不可欠な基本条件であり、この高齢者移送サービスを起点として、市当局と地域住民が英智を出し合い、次の公共交通確保施策へとステップアップされることを要望したい。

【通信Ⅷ】令和3年8月14日 記

東京五輪レガシーをコロナ対策に活かせ

東京五輪が終わった。新型コロナウイルス感染拡大のなかで、開催に懐疑的な意見が7割以上というような状況下での開催であっただけに、何とか大きな事故も無く無事終わってホッとしたというのが実感だ。

復興五輪、コロナに打ち勝った証しの五輪、といったスローガンは、ことごとく打ち砕かれ、最終的にはコロナと戦いながら、感染拡大のなかで、いかに安全・安心を確保しながら無事開催できるかに焦点が絞られた大会であった。ただ無事に終わったから、コロナ禍のなかで開催できたからそれでよし、開催そのことに意義があったということで終わってはならない。

新型コロナウイルスの世界的感染のなかで開催できた五輪のレガシーを、如何に今後のコロナ対策に活かせるかが、国民の理解を得る鍵である。

出入国管理、検疫体制、選手・大会関係者の移送手段、選手村の運営などそのノウハウは多岐にわたりコロナ対策に十分応用できるはずだ。いま患者受入医療施設のひっ迫のなかで、国が中等症患者も基本的には自宅療養の運用をうちだしているが、これもコロナ対策を考慮して運営された選手村の活用で緩和できないのだろうか。五輪レガシーを今後のコロナ対策に活かすことが、今回の五輪開催意義を世界に発信することに繋がる。

【通信Ⅸ】令和3年9月20日 記

知事の「限界」発言は不適切

県議会で衆院選への立候補を促す自民党県議からの代表質問に、飯泉嘉門徳島県知事は「将来に向け、夢と希望が持てる国づくりを進めるために、知事では限界がある」と答弁した。2年間、全国知事会長として大臣らとの折衝で痛感したとも吐露した。

しかしそうだろうか。コロナ対策でも積極的に斬新な取り組みを国に迫り、実現させてきた知事はたくさんいる。飯泉知事は18年間徳島県知事として務めてきたにもかかわらず、最近2年間の全国知事会長としての業務をこなして、初めてそのことが分かったかのような発言は解せない。

言葉通りなら、これまで知事として、国に対してそのような活動をしてこなかったということではなからうか。そうであるならば、知事として職務怠慢である。また国に対してきちんと働きかけをし、実績を挙げている他の知事に対しても大変失礼な発言で、知事職や県民を愚弄する不適切な発言ともいえる。

知事が今なすべきことは、コロナ対策などを積極的に進め、前全国知事会長としての知名度を生かし、国に積極的に働き掛け、残された2年間の任期で、安全で安心な県民の生活を再構築することである。国政への転身は、知事の職責をきちんと果たし、任期満了後に熟慮すべき課題であり、残り2年間の職務を全うするよう全力を注ぐべきだ。

【通信Ⅹ】令和3年11月2日 記

1区選出3議員に期待

第49回衆議院選挙が10月31日に投開票された。徳島1区でも激しい選挙戦が展開され、仁木博文氏（無所属元）が後藤田正純氏（自民前）に約2万票の差をつけて選挙区で初当選した。最終的には、後藤田氏も吉田知代氏（維新新）も比例四国ブロックで復活当選し、同一選挙区での立候補者の3人が当選という結果となり、1区有権者にとっては誠に喜ばしい結果と言えるだろう。というのも小選挙区選挙では、死票（落選候補に投じられた票）の割合が大きくなるのが問題視されるが、徳島1区の場合、有効票の198,745票のうち実に99.1%（196,937票）が、当選者に投じられたことになり、ほとんどが生票になるという画期的な結果になっている。

1区で投票に行った有権者のほとんどが、自分の投じた1票が国会に繋がったとの思いを抱いているはずである。比例復活当選であっても選挙区の惜敗率により左右されるから1区の投票バランスが絶妙であったということであろう。選挙は激しい戦いであったが、国を良くしたい、徳島県を良くしたい、県民の生活を良くしたい、議員としての思い、理念は同じはずである。

選挙が終われば、ノーサイド、同一選挙区に立候補した3人で協力できる政策は力をあわせて有権者の思いを国会活動に反映して欲しい。生票に大きな力を与える3本の矢になって欲しい。3議員の活躍に期待したい。

【通信Ⅺ】令和3年12月11日 記

サポーターも一流目指せ

徳島ヴォルティスのJ1残留は叶わなかったが、来期には再びJ2優勝、そしてJ1復帰を期待したい。シーズン終了間際まで当落線上の戦いが続き、選手の必死さが伝わり、県民の多くが声援を送ったに違いない。ただ残念であったのは、応援のあまり、度が過ぎたサポーターがいてひんしゆくを買ったことである。2週続けてのサポーターの言動に問題が発生し、残留の機運に水を差してしまった。サポーターがチームを育てると言われる。J1を目指

すチームのサポーターもしかり、それに相応しい品位、品格をもたなければならない。応援のあまりひいき倒しになるような言動は慎みたいものだ。

政治の世界でも選挙民の品位、品格に応じた政治家が生まれると言われる。このところの県政、市政の混乱ぶりを見るにつけ、我々自身もその選挙行動がどうであったか自

省してみる必要もありそうだ。

徳島ヴォルティスも、来期こそ選手・サポーターを含め、J1に相応しいチームに育て、一流のサポーターの後押しで、早期復帰を目指して欲しいものだ。県民は、もろ手を挙げて応援している。



勝手に書きます！
言いたい放題名作映画紹介

昭和43年度機械

乾 寛



昨年本欄で、新型コロナウイルスのため自粛生活を余儀なくされ映画館には一切行けなかった、と書いたが、その状態がさらに1年延長になってしまった。この原稿を書いているのが2021年の10月であり、やっと収束した感があり映画館通いも復活できるか、と期待しているが、それにもましてネット配信映画の便利さを実感している。旅行やスポーツ観戦、演奏会等は現地に行くことによって「実体験」という大きな感動があり、スクリーン上で見るだけの映像経験とは全く違うが、映画は劇場で見ようが家庭で見ようがソースは同じでありそれほど差はない。もちろん、大スクリーン、音響効果等、映画館ならではの感動は捨てがたいが、高画質超大型テレビやサラウンド方式の高級音響装置もすでに市場導入されており、その差は縮まりつつある。おそらく従来のレンタルビデオショップは次第になくなり、近いうちに封切映画もネット配信されるようになるだろう。出歩かなくてもいい、という時間節約が決定的メリットであり、残された時間が少ない我々老人にとっては実に喜ばしいことである。

ということで、今回紹介する映画は2本ともネット配信で再鑑賞した作品である。洋画は、今見ても決して古さを感じさせない「2001年宇宙の旅」（この種の映画は是非映画館の大スクリーンで見るべき、とも思うが）。映像のすばらしさとストーリーの斬新さはいまだに強く心に残っている。邦画は戦争映画の決定版「人間の條件」。日中戦争の中で翻弄されながらも自分の生き方を貫き通した青年の物語である。両作品とも人生の糧ともいえる感動を与えてくれるはずである。

「2001年宇宙の旅」1968年

スタンリー・キューブリック監督 キア・デュリア

壮大な宇宙叙事詩として今でもナンバーワン映画と言われている超大作であるが、正直なところ内容はよくわから

ない。そんな状態で他人に解説するなんてことはまことにおこがましいが、あえて感じたままをお話したい。見て良かった、と誰もが感じられるはずである。オリジナルタイトルは「2001: A Space Odyssey」であり、邦題はその直訳であるが、なぜ、2001年なのだろう、という疑問がわく。公開された年の翌年には初めて人類が月面上に立った。その頃から30年も経てば、あるいは21世紀になれば自由に宇宙旅行ができるのではないかと、この希望もあったのだろうか。ところがそれから50年以上経っても人類の惑星間飛行なんていうのはめどさえ立っていない。宇宙旅行は昔から人類の夢であるのは間違いないのだが、壁は案外大きいのだろう。さらに、環境問題や地球の持続性そのものが優先すべき大きな科学テーマとして登場してきたのも原因かもしれない。この映画はシネマ上映であり、そのことも大きな話題だった。映画を意味する「シネマ」と広々とした全景を意味する「パノラマ」の合成語であり、手前に大きく湾曲した横長の大スクリーンに3台のカメラで映写する、という大がかりのものだった。映写できる映画館は東京と大阪に1館づつしかなかったらしい。当時は高専の5年生だったろうか。徳島市の洋画封切館OSグランドで縮小版が上映されていたような記憶があるが、その時は見なかった気がする。その後どこかの映画館でリバイバル上映され、映像のすばらしさに感動した記憶はあるが、同時に内容が全く分からなかった、という記憶も鮮明に残っている。今回改めて見たわけであるが、やはり内容は理解できない。とりあえず、言いたい放題で解説しようと思う。

この映画の見どころの一つは宇宙船の飛行場面であろう。ワルツ「美しく青きドナウ」をバックに漆黒の宇宙をのんびりと（実際は超高速なのだろうが）飛行している。当時はCG技術もなくほとんど実写だったと思われるが、セット撮影とは思えないほどリアルである。ペンが無重力状態で空中浮揚している場面はごく自然に撮れているし、船内移動は磁石で靴を床にくっつけながら歩いている。無重力なので円筒形の室内を、壁、天井と歩いて回転するのだが、これはカメラと室内を同時に回転させて、あたかも人が歩いて回転しているように見せているのだろう。繰り返し見ると（ネット配信だから何度でも繰り返し確認できる）撮影からくりの想像がつく。宇宙ステーションはそれ自体が回転し、遠心力によって重力を作り出してい

るから地上と同じように行動できる。そのためにドーナツ状の内部に部屋があり、通路は上り坂になるように湾曲して作られている。惑星間飛行では地球との交信は数十分かかるため、同時会話はできないはずである。このあたりはどう表現されるのか興味があったが、当然交信場面はなく、情報交換は一方通行のみであった。コンピュータによる自動操縦システムとか科学考証もそれなりに考えられている。50年前に作られたものとは思えず、今制作された映画と言われても違和感はない。

この映画のテーマは何だろうか。別にいろいろ考えなくても楽しめるんじゃないかと思うが、あえて「生物の進化」と思いたい。映画の冒頭場面は400万年前の地球である。アフリカで人類の祖先が出現したと言われている頃である。そこに「モノリス」という真っ黒の石碑が急に現れる。それに触れた猿は何らかのインスピレーションを受け、動物の骨を道具として使用することを知る。素手で殴るよりはるかに強力であり、獲物を捕獲するのもはるかに効率的になる。人類への進化の始まりである。当然道具は武器ともなり、武器を持ったものは持たない者を簡単に倒すことができる。人類の歴史は侵略や戦争の歴史であり、武器の進歩とともに進み、それは今も続いている。問題はモノリスの正体であるがさっぱり分からない。そもそも誰が作ったのか。地球外知的生物なのか、あるいは神なのか。空高く投げられた最初の道具である骨は400万年後の宇宙船に姿を変える。この急転換の場面は有名なシーンである。宇宙船の管理はすべてコンピュータによって行われている。そのシステムは「HAL」と名付けられているが、それは当時の世界最大のコンピュータメーカ「IBM」のそれぞれのアルファベットを1文字手前にずらせたものである。HALもモノリスからインスピレーションを得たのか進化を始める。単なる道具が意識を持ち始めるのである。自分の存在を自覚し、生物としての本能である生存を求め、人類に対して反乱を起こすのである。単なる道具とみなされていた奴隷が、人権に目覚め主人に反抗する、ということと全く同じである。進化とはこういうものであり、道具が意識を持つ事態になっても何ら不思議はない、という人類への警鐘ではなからうか。宇宙船のシステム管理者に反乱を起こされたらもうお手上げだ。冬眠中の3人のクルーは死亡、船外での作業員は宇宙空間に放り出され、最後の一人もドアを開けてもらえず宇宙船内に入ることを拒否される。万事休す、なのだが何とか手動装置で船内に戻り、コンピュータの記憶装置を1つつ取り外していく。HALは自分の危険を知り、しきりに弁解し、謝り、命乞いをするのだが、これが実に哀れで人間味たっぷりであり、かなり皮肉的だ。HALはなぜ反乱に失敗したのか。武器を持っていない、いや武器を使用する能力を持っていなかったからである。管理という枠内で反乱することはできたけれども直接危害を与える手段は持っていなかった。意志は持てたが骨は持てなかった。ところが現在のコン

ピュータは武器として使用されている。戦場で戦う人間の兵隊は不要で、リモートコントロールでピンポイント攻撃ができる。そのシステム全体をコンピュータが管理している。いわばe戦争である。このシステムがHALのように意識を持ったらどうなるか。半世紀前、原作者や監督はそこまでは考えてはいなかっただろうか。

さて、問題はここからだ。さっぱりわからない。コンピュータが死んでしまった以上航行はほぼ不可能だろうが、なんとか目的地木星に到達する。木星の重力圏に入ったらそこにはモノリスもいた。そこから映画は急展開し、万華鏡のようなサイケデリックな画面の連続となる。意味もない（本当はあるのかもしれないが）画面が10分間も続く。呼吸音を強調したような音も絶え間なく続く。すると突然ヨーロッパ風の部屋が見えそこにはパイロットの老いた姿があった。なんと食事中だ。最後に胎児が大写しになる。意味がありそうだがどうしても理解できない。もちろん科学的に解明できていないことはいっぱいある。進化に関しても、最初のできごとである宇宙の始まりはどういう状況だったのか。ビッグバンや特異点、反物質とか言われても理解はできない。次の段階の生命の出現にしても明確な理論構築ができていないわけではない。すべて神が創られた、と思う人が多いのもむべなるかな、である。彗星の衝突によって地球に生命がもたらされたかも、という仮説はあるが、では彗星上にどういう理由で生命が現れたのか、という同様の問題は残る。無機質の物体の集合からいかにして生命が現れたのか、というのが本質の問題であるから答えになっていない。無理にわかっていなくても良いのではないかと、とも思う。

そして映画は終了し、エンドロールと同時に再び「美しく青きドナウ」が始まる。カラヤン指揮、ベルリン・フィルの壮麗な演奏である（ネット配信なので画面を止めてエンドロールをしっかりと読むこともできる）。エンドロールは4分程度で終わるが、真っ黒の画面のまま演奏は最後まで続く。演奏時間合計約8分。「よく分からない映画だったと思います。実は私もよく分かっていないのです。でも楽しめたでしょう。すぐに席は立たずにしばらく余韻を楽しんでください。」と監督が言っているようだ。

「人間の条件」 1959年 小林正樹監督 仲代達矢 新珠美千代

五味川純平が自分の従軍体験をもとにした6部作からなる同名小説が映画化されたものである。3本に分けて順次公開され、合計9時間半の大長編作品であるが全く退屈させない。なお同作家の「戦争と人間」も同様に大長編として映画化されている。こちらの方は、日中戦争の勃発から太平洋戦争に至る経緯を描いたものであり、複雑に絡み合う人間関係やスペクタクル場面満載の派手な映画であり、面白さだけからいえば「人間の条件」を上回るかもしれないが、人間というか個人の生き方がテーマとなっている、

という観点から、あえて「人間の条件」を取り上げる。実はこの映画の公開当時私は小学生であり、封切時にはこの映画は見ていない。ただ、その後小説を読み、いつかはリバイバル上映されるのを待っていた。公開から15年も経った頃だろうか。長男が生まれた頃だったと思う。当時はコマツの栃木支店で働いていたが、新宿の映画館でオールナイトでリバイバル上映される、という情報が入ってきた。週末の業務後、宇都宮駅から特急電車で飛び乗り新宿へ行った記憶がある。

それからほぼ半世紀たってからの再鑑賞である。仲代達矢演じる青年梶が、戦争の中でもしっかりと自分の意思を貫いて生きていく、という姿に感動した、と漠然とした記憶は持っていたものの、詳細は全く覚えておらず、あたかも初めて鑑賞するような状態だった。最近の老人仲代の顔を見慣れているせいか、目玉くっきりの若き仲代は非常に新鮮に見えた。心と同様この上ないきれいな顔をしており、役柄ピッタリである。満州事変を経て日本企業はどんどん満州に進出し、その一つの鉄鉱石鉱山会社が梶の務める会社である。原作者の五味川純平も同様の経歴を持っており、いわば自分の経験に基づいた物語であり、全くのフィクションではないのであろう。全3本の舞台設定はそれぞれ明確である。1本目は、過酷な条件下で働かされる現地労働者と向き合う労務管理者として、2本目は、関東軍にたてつく問題社員とみなされ、送り込まれた前線部隊の初年兵として、そして3本目は、ソ連軍に負け逃亡を続ける敗残兵として、それぞれの立場で人間としていかに生きるべきか、を問い続けながらその日その日を生きていく姿を追っていく。併せて、正しかるべき梶自身の主義主張が大きな組織に対してはいかに無力であるか、ということもこれでもか、これでもか、と思わせるほど強烈に描いている。組織というのは会社と軍隊であり、その背後には国家という大組織がひかえている。その組織を構成しているのは当然である。この映画のテーマは、梶という一青年の生きざまにあるのはまちがいないが、組織を構成している大勢の人間もどうあるべきか、ということも「条件」に含まれているのであろう。

梶が個別にどんなことを思い、何をしたのか、ということには触れない。予備知識なしに彼の行動を楽しんでほしい。はっきり言って彼は周りから完全に浮き上がっている。あまりにも正義感が強すぎて、言わずには、あるいは行動せずにはいられないのだが、何もそこまですることはなかろう、という感想は誰もが抱くと思う。自分自身としても、梶のような行動はとれない。しかし、この一種の爽快感というか満足感って何だろうか。少なくとも、人間としていかに生きていくべきか、ということを変えて感じさせてくれるからではないか。自分の犠牲さえいとわず、他人も同じ人間ではないか、と信念を貫く姿には神々しささえ感じる。逃避行を続ける梶の姿は、処刑前に十字架を背負って、石を投げられる中を歩くイエス・キリストの姿に完全に重なって見えた。そうしてもう一つ印象的なことは、こうした彼の行動がほとんど報われない、ということである。さらに付け加えれば、確固たる信念が崩れ落ちていくプロセスである。現地人従業員を虐待や殺害から守ることにあれだけ執着してきたにもかかわらず、自分たちが生きて逃亡を続けていくために自らソ連兵を刺殺してしまうのである。その時の彼の言葉が印象深い。「銃で撃っているときは、たまたま弾が当たった時に相手は死ぬ。ところが背後から刺し殺してしまった、ということは紛れもない殺人であり、とうとう俺は殺人者になってしまった。」と後悔する。単なる言い逃れであるが、彼の精いっぱい、彼なりの釈明だったのだろう。そしてさらに言い逃れのできない事態に陥ってしまう。敗残兵として逃亡している時にはもはや国家とか軍隊といったしがらみはない。彼の心はついに破裂してしまう。彼の部下が全く不条理な理由で軍隊内で殺されてしまった時、今まで抑えに抑えていた扉のロックが壊れてしまう。その原因となった上官を殺してしまうのである。完全に復讐による殺人である。戦争という異常な環境の中でとうとう彼は本当の殺人者になってしまった。さらに、その時には後悔の念すらなかった。当然のことをした、という想いだったのか。いや、そのことさえ感じなくなっていたのではないか。頂点から奈落に真っ逆さまに転落してしまった。人間として間違っていなかつ

よるず
伝言板

「同窓生の声」募集

本校も独立行政法人となり、現在、様々な対策を取って教職員一丸となっております。しかし、教職員の知恵だけでは不十分な点もあろうかと存じます。本校発展のために同窓生の皆様のお知恵も拝借することができましたらこれほどありがたいことはありません。『悠久』や本校のホームページ等をご覧になってお気づきの点がありましたら何なりと左記連絡先までご連絡い

ただけましたら幸いです。高い見地からの皆様のご意見をぜひお寄せください。同窓生の皆様のご協力をお願い申し上げます。

【連絡先】 阿南高専学生課

阿南市見能林町青木265

T E L 0884-23-7132

F A X 0884-22-4232

MAIL dosokai@anan-nct.ac.jp

たか、人間の条件に外れなかつただろうか。彼は何も考えることもなく極寒の荒野をさまよひ続ける。

ここで主人公ではなく周りの人間たちにも目を向けてみたい。その中には少数ではあるが梶の考えに半ば賛同する人たちはいる。また、どう見ても人間の条件に失格というべき人も何人かいる。しかし、ほとんどの人たちは何もせずどちらにも属さない人である。大勢順応型というか世の中の流れに乗って流されている人たちと言ってもいいかもしれない。会社では上司の命令に従っていれば生活には困らない。ましてや戦争という異常事態である。現地人の生活になんかかまっていられない。そういう人々、言い換えれば「普通の人々」が大多数である。誰かが犠牲になっている、という意識はありながらも、自分のそれなりの生活は壊したくない、これまで通りでいい、と考えるのは普通のことであつたのだろう。だから梶のような人間は完全に浮き上がってしまう。ユダヤ人虐殺のヒットラーが国民の多数から支持されていたことも、米軍上陸に備え女性に竹やり訓練させたことも、ちょっと前までは、部落民、LGBTや障害者を差別していたこともあつた。ほとんどの人は本音では「いけないこと」と思っていたのではない。でも、当時は普通のこと、としてずっと見過ごされてきた。今はどうだろうか。ドイツ人自身ほとんどの人が反省し国家としても明確に誤りを認めている。日本の戦時中の異常な行動もすべてではないが反省の対象になっているし、マイノリティの人権も回復されつつある。先日NHK教育の番組「バリバラ」で被差別部落出身者が堂々とテレビで発言している姿を見て、ここまで世の中は変わってきたのか、と再認識した。要するに、基本的に人間には正義感や倫理観は本来備わっているものであり、逆にいえば、そういった資質にしたがって行動することこそが人間の条件である、とこの映画は改めて訴えているのではなかろうか。梶のような人間はもちろん少数派だろう。しかし、少しでもいいから普通の人々が人間の条件を発揮すべきだ、と訴えているのではないだろうか。

今この原稿を書いているのは締め切り間近の10月中旬であり、衆議院選挙の公示もされた。10年以上前になるが、不祥事の続いた麻生政権が倒れ当時の民主党が政権をとった選挙の前日、秋葉原と新宿で両陣営の最終演説を聞いた。熱気が全く違っており、当時の普通の人々の力がピンピン伝わってきた。今も野党攻勢が伝えられてはいるが、政権交代にまでつながるかは分からない。おかしいことはおかしい、と言える人がどのくらい行動するか、にかかっているのではない。経済や外交国防問題は、国の方針としてしっかり議論されて決定されるべきものである。その結果、増税政策を採用し軍事力強化となっても、国民は受け止めなければならない。ところが、そもそも前提条件として、モリ・カケ・サクラの諸問題をはじめとして、人間として矜持のかけらもないような輩は議員であつてはならないのではない。丁寧に説明する、と言葉では言い

ながら決して説明しようとしぬ彼らを、ほとんどの人は良くは思っていないのではない。にもかかわらず、たかが選挙にさえ有権者の半分しか行かない、ということは「今のままでいい」「めんどろはごめん」といった無気力派が半数いるということなのだろう。「戦争だから仕方がない」と自分の考えを封印してしまう映画の中の人々と同様、人間の条件失格者なのではないか。

一方で、この映画はもう一つの人間の条件も提示する。それは愛情である。人類愛ではない。男と女の愛情である。映画の冒頭は若い男女の結婚話から始まる。堅物映画なのになんとなく違和感があつたが、男女のお互いを思う心情も間違いなく人間の条件なのだろう。ただ、二人の関係も相当浮き上がって見える。離れ離れになつていながらもこんなに愛し合う夫婦というのは実際にいるのだろうか、とも思う。梶はそもそも子供のように純粋な心を持った人間として描かれている。当初は、正義感と愛情という二つの人間の条件が葛藤しながらも正義感を優先してきた。しかし、戦いに敗れ先が全く見えなくなっていくにしたがって、愛情の占める割合が大きくなっていく。死が見え始めた時、彼の心には妻に会いたい、という想いしか残っていなかった。究極の個人的思いである。そこには倫理感や正義感は全く消え失せている。しかし、究極の人間の条件とは恋人や妻である女性への愛着である、ともいえるのではないだろうか。宿命、といつてもいいかもしれない。梶はついに疲れ切つて雪降る原野に倒れてしまう。一方妻はどうなつたのか？侵略してきたソ連軍が妻の髪の毛を引っ張つて拉致する場面がワンカットだけ挿入されている。どうしようもない悲劇の中で大長編は静かに終わる…。

第2回目で紹介した映画「切腹」は、この映画の直後に小林正樹監督と仲代達矢の同コンビで作られたものである。ふと考えるとこの両映画は非常によく似ている。ともに、かたや武家社会、一方は軍事社会、という組織の中で普通の個人がどん底に落とされ、その組織に対して復讐する、というパターンである。それぞれの主人公は復讐できる力を持っており、復讐そのものには観客としてそれなりに賛同し溜飲を下げる。ところが、社会の基本構造には何ら影響を与えることもなく、単なる個人プレーの悲劇として終わる。こんなことでいいのか、と現代社会にも通じる問題意識を持つようしっかりと訴えているように感じられる。

今回はSF映画と戦争映画という全く異質映画の組み合わせではあるが、共通点はある。前者は科学的観点から、そして後者は社会的観点から、それぞれ「人間とは何か」ということを問いかけている、と言えないだろうか。



赤い手帖 (31)

昭和45年度電気 森田 虔児

旅の恥はかき捨て、と諺にある。しかし、芭蕉や鴨長明などの記した如く、すべての人にとっての人生そのものが、まさに旅であるという気がする。自分は、これまでの半生で、仕事先や社内でも数々の恥をかいて来たに違いない。しかし生来の無神経のお陰か、上司や同僚・部下に散見された胃潰瘍の罹患や、入社拒否に陥るような切実な経験がないまま、会社員生活を終えてしまった気がする。片や、本当の旅の先々では、危機に遭遇する可能性が多分に有ったようだ。

例えば、エジプト旅行の直後にルクソール乱射事件があった。またタイのプーケットで遊んだ日々の直後に、当地では地震による大津波が発生した。国内の旅先では、よく利用する錦ヶ浦近くのホテルで、メインダイニングの展望ガラスが、台風の影響の大波により一気に破壊された。また、御巢鷹山事故の同便（機体は異なると推定するが）に、丁度1週間前に乗り合わせたこともあった。そして、今年7月には、熱海の土石流災害が発生した。件の伊豆山には、十年以上前から崩落事故の元凶となる山頂付近の盛り土が存在していたらしい。昨年7月と10月末に、一家6人でこの地区のホテルに、なんと二度も宿泊していた。運が悪ければ、台風の豪雨や梅雨時期の線状降水帯に遭遇するリスクが、そこでも充分にあった訳である。

最近では、10月7日の深夜近くに、千葉県北西部を震源とする、関東地方では10年ぶりという大地震が発生した。その次の日は、家内が休みの予定であったので、幼稚園児の孫二人を連れて、江の島のシーキャンドルに昇る計画を立てていた。当日は、秋晴れの好天に恵まれていたのであるが、その大地震の揺れから向こう一週間は、関連した余震が懸念されるというので、久しぶりの江の島行きを断念した。

話は飛ぶが、この10年前（2011年の後半）といえ、小生が61歳過ぎの頃で、秦野市にあった、三つ目の転職先の会社に通勤していた。登山者も多い丹沢の麓の駅まで、自宅からは、電車で結構な通勤時間を要した。勤務先の事業所は、小田急線の駅から、さらに徒歩でたっぷり20分以上の距離があった。雨や雪の日だけでなく深夜帰宅の際は、舗装が行き届いていない田舎道を、毎日せっせと歩き続けるのが、まあ良い運動にはなった。時には歩く経路を変えたのであるが、途中にある美容院風の

店のガラス窓に、そよ風に髪をなびかせた若い女性のポスターが貼られていた。最初、それはパーマ屋さんの宣伝モデルだと思っていたが、そのうち「牧島かれん」という名前が添えてあるのに気付き、地元の議員候補なのだと理解した。彼女は、今年10月に発足した岸田新内閣で、デジタル行革担当大臣として初入閣したようだ。10年前に見かけたポスターは、恐らく20歳代後半の、ご本人の写真であるが、制作者の映像技術が優れているためか、実にエレガントで爽やかな印象の、忘れがたいポスターになっていた。当時の仕事（データセンターの構築等）の関連で識ったのであるが、この秦野地区一帯も、東海地震・南海トラフ巨大地震発生時に懸念される、複数の活断層に囲まれた地域だった。

コロナ禍で海外旅行やサッカー観戦の遠征（アウェイ戦ツアー）には行き辛くなったため、熱海の土石流報道の少し前となる3月下旬に、上の孫の誕生祝いと下の孫の幼稚園入園祝いを兼ねて、箱根湯本温泉の最も奥にあるホテルに、同居家族6人で泊まりに出かけた。そのホテルの敷地内には滝や神社があり、ペットを飼っている檻や、多くの錦鯉を放している池があつて、庭園内にアヒルなども自由に遊んでおり、部屋にある露天風呂と併せて、孫達が退屈せずにお過ごせ。フロントへのアプローチの壁際（ニッチ）には、つい先日、全勝のまま横綱を引退した白鵬の、宿泊時の手形が飾ってあつた。

今年も魚沼から、コシヒカリの新米1年分が9月下旬に届いた。その農家とは30年を超える付き合いであるが、元村長であつた先代がとうに亡くなっており、いまはその一人息子が、道路公団に勤務しながら、兼業で稲作の対応をしているらしい。魚沼産の玄米については、自宅から5kmほど離れた農家の無人機を借りて、小生が毎回、袋の半分（15kg）ずつを精米している。その精米所の近くには、浄水場や比較的最近に開校した公文国際学園（小・中学部）があり、これらに挟まれる位置に、花卉・樹木や池を配し、手入れの行き届いた広めの市営公園がある。辺りは、田園風景に恵まれた、長閑な丘陵地帯である。この人里離れた感の在る公園は、小生と同居している、ふたりの孫とそのママにも評判が良く、彼らの希望がある際には、精米の序に連れて行き、公園で遊ばせることにしている。つい先日、孫達と出掛けたその公園入口の前を、なんと「とくし丸」と描かれた軽トラックが通り過ぎたのである。同窓会誌「悠久」48号で、住友達也氏（11M）が講演された件は記憶にあつたが、まさかこんな身近で、かつ横浜市内として割と辺鄙な場所で、「とくし丸」に初めてお目にかかるとは思わなかった。さらに、10月中旬の全国紙の横浜版で、「移動スーパー 独居高齢者を見守り」の新聞記事が目にとまり、その記事に添えられた、横

須賀市提供の写真に写っている軽トラのドアにも「とくし丸」と描いてあり、改めて驚くとともに、「買い物難民を救済する」という事業コンセプトに納得した。

秋晴れの歩き日和に、明月院そばの「葉祥明美術館」を、日々訪ねてみようと考えている。北鎌倉の明月院へは、1970年代に、紫陽花を觀に、頻繁に出向いていたが、その後は、花が小振りになったことに加え、観光客が殺到する気配が増して、すっかり足が遠のいてしまった。この葉祥明美術館は、1990年に開設されたようで、北鎌倉に度々行っていた当時には、存在していなかった。かつて鎌倉歩きに勤しんでいたある晩秋の頃、明月院前の通りを山手側に向かって歩けば、鎌倉湖に辿り着けるのではないかと、地図も持たずに、九十九折の坂道を上って行ったことがある。坂の上に住宅街があるのか、JR横須賀線の北鎌倉駅で降りたと思われる一群の人達が、慣れた足取りで小生を追い越して行った。丁度、横に並んだ形で通り掛かった女子高生に、「鎌倉湖に向っている積もりだけど、この方向で大丈夫だろうか」と尋ねてみた。すると、「まだ少し距離はありますが、道は合っています。途中まで同じですからご一緒します」と明るく応じた。そして、「多くの皆さんは『鎌倉湖』と言いますが、正しくは『散在ヶ池』なんです」と、鎌倉育ちらしく親切に教えて呉れた。私立校の制服を着て、海老茶色のソックスを履いた、中村江里子似の、清々しい印象の少女だった。暫くの道連れの途中で、「きみを何と呼べばいいの」と尋ねると、「さき、マツザキさきです」と、あまりにも躊躇いなく答えたので、その苗

字の方は正確に聞き取れなかった。その時分からの40年近くが呆気なく過ぎてしまった。

実は、「悠久」第53号が今年4月10日に届いた翌日、徳島市内に住む1歳違いの兄が心筋梗塞で急逝した。歌劇クラブの活動や郷土史研究、英会話、中国語会話・太極拳をはじめ、カラオケからパチンコまで多趣味の兄であったが、高校生時代から筑摩書房の「展望」に投稿するような面もあり、つい数か月前の「文藝春秋」（三人の卓子）に掲載されたのが、その最終稿となったようだ。また中学生の頃に、実業家であった伯父に贈呈された獅子文六の「大番」に触発されたのか、株の相場にも興味を持ち、電電公社民営化後の株の売買等でも、投資実績をあげたようだ。横浜の我が家に最後に泊まったのは、品川にある某社の株主総会に出席した時であった。中学生の頃から、兄の本棚には萩原朔太郎の「月に吠える」などの詩集だけでなく、「拡張する宇宙」の類の科学系の書籍もあり、また小生が漱石に興味を持つきっかけも与えて呉れた。兄が中学入学後に始めた剣道に関しては、あとの兄弟ふたりも追従したが、兄自身と小生は、共に大成しなかった。一方、戦前に大阪千里山での銃剣道大会で活躍し、鉄棒でも大車輪をこなしていたというおやし譲りの、運動神経に優れた弟だけは、六段に昇段した。因みに、我が息子さんのお嫁さんの父君は、剣道七段だそうである。

中学2年に在籍中、大麻比古神社奉納剣道大会に参加した兄は、その会場近くで、ひとりの郷土史家の知己を得て、

よるず
伝言板

悠久同窓会ホームページのお知らせ

昨年度より、悠久同窓会ホームページを開設しました。

各支部のご案内、刊行物（同窓会誌）の閲覧、お知らせなどのコンテンツを用意しております。まだ作成途中ではありますが、今後、卒業生の皆様に情報発信していく予定です。是非ご覧ください。

<https://yukyu-dosokai.com/>

【阿南高専 HP「悠久同窓会」ページにもリンクを設定しています】

悠久同窓会ホームページには、同窓会誌「悠久」のPDFデータを掲載しています。

バックナンバーも含め、WEB上でいつでも「悠久」をご覧いただくことができます。

今後、冊子で「悠久」の送付を希望されない方は、同窓会事務局までメールでお知らせいただくか、下記QRコードを読み込み、必要事項を入力してください。

悠久同窓会事務局メール

dosokai@anan-nct.ac.jp

卒業回（卒業年）、所属学科（コース）、お名前と「悠久の冊子送付は不要」の旨ご連絡ください。

悠久同窓会連絡フォーム

悠久冊子送付不要の連絡ほか、住所変更、その他お問い合わせなども、こちらのフォームからご連絡可能です。QRコードを読み取ってください。

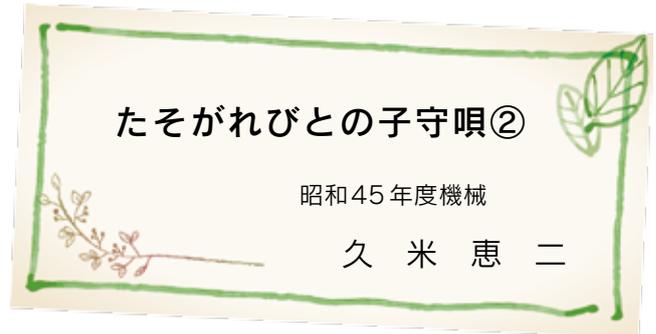


その後暫く、書籍（ご著書）を頂戴したり、頻繁に文通をしていた。それ以降、阿波の細川家・佐々木家・小笠原家などの盛衰や、祖母の生家に所縁のある、一宮城の歴史にも興味を持ったようである。兄に郷土史の刺戟をもたらし、たその方とは、小生は面識は無いが、確か藤川正一というお名前の方で、悠久会員諸兄の中に、ご存じの向きもあるかも知れない。

二年足らず昔に、兄自身が喪主として母を見送った同じ葬儀場で、コロナ禍の時節柄、市内在住の親族だけが参列した通夜・告別式が営まれ、当方からは夫婦ふたりで横浜から赴いた。その後の満中陰（四十九日）の法要への、東京方面からの家族での参列は、全員がワクチン未接種で、かつコロナ蔓延時期と重複することもあり、残念ながら見合わせた。従って、仕事などを休んで、徳島行を予定していた6人家族の日程が急に空いてしまった。当時、同一市内の移動には制限がなく、かつコロナ禍で予約も取り易かったため、7年前に息子が挙式したホテル（インターコンチネンタル）の、オーシャンビューのスイートルーム（こちらの時節柄、リーズナブルな価格設定だった）に泊まりに出かけた。6歳と3歳の孫ふたりを連れて、みなとみらい地区で赤い靴号のバスで巡り、遊覧船や観覧車（コスモワールド）をはじめ、開業したばかりの都市型循環式ロープウェイ（AIR CABIN）に乗った。近隣のガンダムやカップヌードルミュージアムにも、立ち寄った。それにしても、親戚・縁者の大半が90歳前後の長寿であり、毎年のドックで健康には留意していたという、兄の72年の生涯は、予期せぬ儂さである。

昨年来、小生が鉢植えで育てた枇杷の樹高が40センチ程になったので、バラ用の大きめの鉢を買ってきて、二回目の植え替えをした。偶然であるが、枇杷はバラ科なのだそう。但し、鉢植えのままでは成長に限りがあるため、いずれの日か、うち1本くらいは庭に植え替えたいと思うが、実がなるのは遠い先のようだ。幼いころ、実家の裏山のみかん畑の周りに複数の枇杷やヤマモモの木があった。その枝や幹に腰をかけて、もいだ実を食べながら半日近くを過ごして居たものだ。それらの果実のなる木々は、明治の時代に植えられて100年ほど経っており、大木の風格があった。果物の木が、あのように大樹に育った陰には、先人のひと苦勞があったのだと、しみじみ思う。

生前の兄が、2年前に母を見送ったあと、余裕が出来たことも手伝ってか、山奥の無人となった実家の畑に通い、数本残ったすだちの木に、最近では施肥を始めていたらしい。縁者のお陰で、例年より一回り大粒のすだちが、この秋口に横浜にも届けられた。



「これが青春だ」その②

私は家庭菜園で丹波篠山の黒豆をつくっている。家では食べきれないので知り合いに配っている。枝からさやをちぎるのは大変なので株ごと配っているが、迷惑している人もいるのではないだろうか。

今日は香川、橋本義、山田がわざわざ家にとりに来てくれた。はじめは亡くなった坂本の話となった。そのあと各人の健康問題が話題となった。皆体調は万全ではないものの、だましだましているようだ。そしてひよんなことから「乃木坂46」の話になった。なんのこともわからなかったが、山田と香川が真剣に話し合っている。どうも二人には、ごひいきの娘さんがいるらしい。黙って聞いていたがこの二人は「これが青春だ」という世界にいまに浸っているようだ。

「男はつらいよ」

1年遅れたが東京五輪が開催された。するかしらないかの世論調査では反対の方が多かったが実施された。各種目ですばらしい試合がたくさんあり感動させていただいた。結果としてはコロナ禍で気が滅入っている国民にとってよかつたのではないかと考えている。

話が一転するが、東京五輪の大会委員長だった森喜朗元首相が辞任した。「女性が会議に出ると時間がかかる」と発言したことが、マスコミや女性評論家の反発を買い、やり込められたからだ。昔から正直者がバカを見られているが、私は森さんのように正直者でありたいと思っている。

「訃報」

同期の新居好司から、坂本静司が急逝したと電話があった。以前から体調はあまりよくなかつたようだが、機械4期生の飲み会の幹事をいつもしてくれていたため、大丈夫だと思っていた。坂本家では家族だけの葬儀をと思っておられたようだが、新居が「せめて同級生だけでも」と頼み込んでくれ、15人ほどが参列した。

式の途中で「最後まで生き残ったやつは葬式には誰も来てくれないのか」と冗談にしては悲しい話もあった。葬儀が終わったあと、坂本の話をしていろいろしたかったのだが、コロナ禍ということですぐ散会になったのが残念だった。

夢と希望

運転免許更新の通知が来た。70才になり「高齢者運転教室」に行くようにと書いてある。近所の自動車教習所に講習を受けに行ったが、どうみても免許返上した方がいいと思われる人もいた。そして本番の更新日は松茂町にある運転免許センターに行った。免許証の交付を待つ席には御丁寧に「高齢者用席」と張り紙がしてあった。これでは他の人に70才以上だとまるわかりではないかと憤りを覚えた。

徳島市役所からは「健康保険高齢受給者証」というのも送られてきた。なにがなんでも国や市は私を老人にしたいらしい。先に書いたが70才になっても「乃木坂46」に夢中になっている人もいる。「高齢者」という表記をやめて「ドリーマー」とか「ロマンサー」など、夢と希望があるような文字にかえてもらいたい。

第10回悠久会ゴルフ大会

月の宮CCで35名が参加した。これまで4期生4人一組でまわっていたが、今回は中井(4期)、漆原(7期)、松尾(12期)と私の初組合せとなった。松尾君は悠久会ゴルフ大会の幹事をしてくれており、ゴルフの腕もいいらしい。彼のスイングを横で見ていたが、かなりやっているなと思わせるところがある。悲しいかな中井と一緒にまわったのが悪かった。中井が素晴らしいショットをするので、それに負けじと力んでしまいミスショットがよくあった。漆原君は「我関せず」で淡々とプレーし、まずまずのスコアだった。

私は相変わらずの低空飛行で終わった。ただプレー後、長野君(6期)や芝原君(7期)が最近よく声をかけてくれるのがうれしい。この二人とも低空飛行なので、いつまでも仲よくしていただきたいと思っている。また帰り際に1期生の藤倉さんと会ったが、前半39だったのに後半47で不本意だったとこぼしていた。

「徳島駅伝」

コロナ禍ということで中止になっていた徳島駅伝が再び開催されることになった(令和4年1月4日スタート)。徳島新聞には出場する市町村のチーム名簿が毎日載っている。名簿のトップには団長である徳島県、16市町村の長の名が記されている。そのあと役員として地元の議員や名士など肩書きのある人の名が記され、最後に出場する選手名が記されている。以前から思っていたことだが、駅伝の主役である選手名を一番に書くべきではないだろうか。

「日本シリーズ」

セ・パ両リーグの接戦を制したヤクルトとオリックスの対戦となった。去年はソフトバンクが巨人に4連勝してあつけなかった。今年は本当に手に汗をにぎる好試合ばかりだった。6試合のうち5試合が1点差だった。

ヤクルトの選手はだいたい知っていた。申し訳ないがオ

リックスの選手はほとんど知らなかった。このシリーズを見てオリックスには素晴らしい投手がたくさんいることを知った。4番打者の杉本祐太郎が阿南市見能林町出身ということでオリックスを応援したが、2勝4敗で残念な結果となった。

前年の最下位同士の日本シリーズというのは史上初だったらしい。今のプロ野球はどこが勝つか全くわからない戦国時代になっている。我が阪神タイガースは守護神スアレスの退団が決まり、来年どうなるのか心配している。

With Corona in 2021

昭和45年度機械 西條義昭

♥ 鳴門「内の海」に浮かぶハート型の小島

これは令和3年のHotなNew Newsである。今年になって、鳴門在住の写真家小川直樹氏がドローンを使って、空からの鳴門の写真を撮っていて、内の海に浮かぶ鏡島がハート型であることに初めて気づいた。漁師が「昔から、この島は神聖な島だから一般の人は上陸しないでほしい。」と言って市民には知られていなかった。しかし、神聖な割には、地元漁協の作業小屋もあり、使用目的がはっきりしていない。この地の漁師の娘さんであった人から聞いた話であるが、小学生の時にこの島を探検し、てっぺんには祭壇の敷地のような狭くて平たいコンクリートの場所があるだけで、神社らしきものはなかったと。そして、島周辺の浅瀬の海は大きなアサリがたくさん獲れたのが印象的であったらしい(今はもう獲れないらしいが)。この島の所有者は漁協でなく、鳴門市である。つまり、市民のものである。テレビ、新聞でも度々紹介され、脚光を浴びつつあり、鳴門の新名所になる可能性がある。

有名な俳優の演じる映画かテレビでこの島が舞台に使われると、このハート型の島は「愛の聖地」になり、新たな名所になるかも。



内の海の景色



真上からの鏡島

鳴門鯛、アジ、サヨリ、メバル、ガシユラ、チヌなどがよく釣れ、釣りの為の筏が散在し、釣りのメッカでもあり、蠣の養殖も行われている静かな内の海である。また、渡り鳥のバードウォッチング・スポットである島田島スカイラインの四方見展望台に行ったときとか、船釣りのついでに寄ってみるのもいいだろう。しかし、ハート型には眺められない。あくまでもドローン空撮でのみ眺められる、謎を秘めた、恥ずかしがり屋の愛にあふれた島である。

小川氏に誘われ、ドローンを利用させてもらって撮影した。

📱 おっさんの「LINE」

昭和41年入学の高専時代の悪友3人と「グループLINE」を始めた。年1~2回のミニ同窓会をしていたが、これがコロナで出来なくなった。4人の内、3人は病気持ちで、3人はまだ仕事をしている身である。

先日のLINE 会話記録。HA君が遅れて会話に参加。乃木坂46が話題に。

HA：今晚は、やっと風呂から出た。今テレビで乃木坂工事中・・・やっている。
普段は録画で見ると、面白さは、まだまだ、判らない。今このLINE見るのも、皆とのReal Timeからずれて、時間差を実感してます。携帯が、ピンポン、ピンポンと喧しい。

SA：えらい若い子の出ているTVを見ているな。HA君も若い!! 私は彼女らが区別つかない。

HA：この前、KU君宅に丹波黒豆をもらいに行った時、KA君が「乃木坂は良いよ」とほめちぎり話題になったので、以来録画して見ているが、良さは理解できていない! 昨晚は遅く帰宅したので、TVの前に座ったら、始まる頃だった。

KA：恐らくまだ彼女達の区別がつかないでしょう。個性ある一期生が大半卒業しているので、今は二十歳前後が大半です。これは、あくまで私の好みですが、お勧めは、一期生は、樋口、秋元。三期生は、梅沢、久保、与田。四期生は、北沢、賀喜、早川。卒業した一期生の白石の後釜と言われているのは、三期生の山下ですが、私は好きではありません。若手も個性のある子が多いですよ。若い娘を見て若返りましょう!!

KA：「如何でござんしょ」という乃木坂の写真のスタンプ

KA：この子は一期生の齋藤飛鳥です。

HA：全然区別できません! SA君も、だめでしょう。

YA：私は全て判ります。KA君の教育のおかげです。

YA：でも、一期生が卒業してからはあまり見なくなりました!

KA：私の一押しの高山一実が卒業したのは残念ですが、テレビには時々出ています。YA君の一押しの歌唱力抜群のいくちゃんも、もうすぐ卒業です。

YA：涙を流すパンダのスタンプ

SA：乃木坂、秋葉原、日向坂、櫻坂（桜坂）46やら

48やら。人が多すぎる!! 服装からしてどのグループか判らない。

SA：困惑した鳥のスタンプ

KA：でも別嬪の若い娘は嫌いではないやろ?

SA：キラキラネームと顔が一致しない。可愛い、綺麗なだけでは心が動かない!! この手の子のテレビ、映画を見ないから全くわからない。まあ、私もこれから時代に合わせて勉強するから、映画、テレビで良いのがあったら教えて。

SA：確かに最近の初めて見た子でも、ドラマの中の役の印象で、良いなあと思ったりする人がいるなあ!!

SA：超美人でなくても、話し方、仕草で良いなあと思ったりする子がいい!!

KA：今日の夜の朝日放送、QさまのMCに高山一実が出ています。この子は南房総出身で剣道2段、本も出版してベストセラーに。面倒見が良く性格温厚。乃木坂工事中の番組を見ていると、彼女達の性格が分かって面白い! YA君に教えてもらったが、生田のフィンランド民謡やヨーデルの歌唱力は素晴らしい! ユーチューブで聴けます。

KA：超美人は卒業した白石。乃木坂の中心人物でかなりのしっかり者。同卒した若月はデザインで二科展の入選常連者。この子もテレビに時々出ている美人。乃木坂一期生は個性があって面白かったが、大半卒業して今後どうなるか?

SA：びっくりした動物のスタンプ

SA：詳しくすぎる!!

KA：「ありがとうございます」の乃木坂の三人の写真のスタンプ

KA：YA君も詳しいよ!!

HA：女優や、女性歌手でも段々と混同したり、忘れたりしています。痴呆の領域に近づいているようで

す。犯罪者になれば、精神鑑定の道があるかな。「年のせいだ」、と言い訳ができる。

KA：皆同じです。好みの女優さんを探してください!!

KA：「せーだしてやんないよ」というスタンプ

YA：私は一期生に連動して乃木坂卒業します。

SA：YA 君やKA 君は、どうせ何処かに直ぐ再入学するんだろう!?

KA：「たっすいこと言われん」とのスタンプ

SA：入学前に多数の併願も OK なんだろう!?

YA：えへへ、只今物色中

KA：良いのがあれば教えて

YA：パンダが「OK」をしているスタンプ

SA：二兎を追う者は一兎をも得ず

令和3年12月のある夜の70過ぎのおっさん達のたわいないLINEでの会話でした。



その計画が頭をよぎったのはドイツ駐在3年目の秋、その前年89年にフランス下では顕著な仕事が展開されていた。一つは循環器診断システム (CVS) がヨーロッパでも屈指の名門フランスの FOCH HOSPITAL へ納入されたのをはじめ、一挙に四病院で大小の CVS がフランス下で活躍開始なったこと。FOCH HOSPITAL の据え付け指導でパリに赴いたとき、投宿したサンラザール駅近くのホテルでの朝食時、日本鉱業 (当時) の出張者の方に遭遇したこと。氏はドーバー海峡で工事が進んでいる英仏海底トンネルの作業に関連して仕事にきており、今日もそのフランス側の町カレイに赴くとのことであった。ここで“カレイの町”、が頭の中に残った。またこの89年、フランスでの仕事は加えてパリでの国際放射線医学会 (ICR) という業界最大規模の学会&機器展が開催されるという大イベントがあり、機器展示の現場の完成、また本社からの要員をも迎えて気の休まることの無い日が続いたものであった。

一方1989年という年はフランス革命200年という歴史的 Big Memorial Year でもあり、街全体ざわついた感があった。

ヨーロッパで生活していると、このような歴史的な事象に遭遇するものなんだな、と多様な歴史を経てきた多種の国土存する国々の間に生きていることへの実感をあらため



図1. フランス一周旅程図 1990.12.21-12.31 10泊11日

→ 走行ルート
 — 国境 (東:伊、スイス、独. 南:スペイン)

始点：デュッセルドルフ (生活の場) →
 アーヘン → リエージュ → ブラッセル → リレ → ダンケルク →
 カレイ → ルーアン → ホンフルー → バイユー → シェルブール →
 モンサンミッシェル → サンマロ → レネ → ナント → ボルドー/
 2泊 → トゥールーズ → アルピ → カルカソンヌ → モンペ
 リエ → ニーメ → アビニヨン → オランジュ → アルル → エクス
 ・アン・プロバンス → ニース → モナコ → アルプス越え →
 グルノーブル → リヨン → ボーヌ → ストラスブール → バーデ
 ンバーデン (独) → 終点：デュッセルドルフ
 * □ : 宿泊地

て得たものであった。…… 駐在中、のちに大きなその歴史的事象に遭遇することになるのだが……。

話を元に戻そう、この年に南フランス エクス・アン・プロバンス



図2. フランス一周走行に活用した電子ナビのない時代、この一冊の地図帳の大きな活躍で順調な旅を得た。

で新たに循環器診断システムの据付が発生した。この時はデュッセルドルフからミュンヘン経由でマルセイユへと飛んだが、上空より見たフランス国土になぜか惹かれ、一瞬、この国を車で一周するっていうのはどうだろう？ 味わい深い旅ができるのではないかと想像は広がっていった。ただ、冬の道であり、当然、危険性も散在しており、まして家族までの車の長旅となるのでその安全への懸念がないでもなかった。また冬場のフランスアルプス峠を越えることでもあり路面はどうか？ 等々多方面での要因に考えが及んだ。気候・路面状況問題は“フランスはこれまで暮らしてきた北ドイツより南に位置している”という概念がその決断へと促し、“車でフランス一周する”と結論した。因みに緯度確認すると、私たちの生活の場であるデュッセルドルフはカムチャッカ半島の南端、また南フランスは北海道位置に当たる。



図3. ドーバートンネル工事中、カレイ側の現場作業関係者のために、ヨーロッパの主要都市へ繋がる臨時バス停が設けられていた（当時）。

この地理的事情を“生活の場”として考える時、誰もが頭の中で「それで平常に暮らせるの？」と疑問符が付く、それに対する答え：“暮らし”、は地球全体で地理を成しているもので ヨーロッパ大陸はメキシコ湾流によって体温維持されている。確かにデュッセルドルフの冬、夜は寒い。10時になる仕事の晩、その時刻になると車にエンジンを掛け乍ら、窓にこびりついた氷をかき落とす時間、窓が見通せるようになるまで日本人同士軽い会話を交わしながら、“一仕事”を終え帰途につく。この時刻ではドイツ人の仲間はすでに離社していない（笑）。

話はまたそれだが、“フランス一周の旅”は（頭の中での）紆余曲折を経てクリスマス休暇で実行に移すことと相なっ



図4. ルーワンの朝市、右はジャンヌ・ダルク通りの表示板
ノルマンディーの街“ルーワン”はジャンヌ・ダルクが火刑になった町。のち彼女は1909年に列福、1920年には列聖され、フランスの守護聖人の一人となっている。街には彼女の名を冠した通りがある。

た。本案が頭に浮かんだ時点での考えは“気軽にフランスの道の子供たちと一緒に駆け巡る、”との気持ちであったが、その意が主柱となって実行、との様に相成った。

ただ、仕事のスケジュールもあり、出発の前日までにフィンランドでのCVSの据付完了をさせなければならぬ荷を負っていた…。その帰り、ヘルシンキからデュッセルドルフへのフライト



図5. ノルマンディー戦争博物館では1945年8月6日、広島への原爆投下記念メモリアルとして展示されている。

では、雨粒に当たるジェットエンジンが光に映える様子をビデオで捉えており、今回改めてその映像をレビューしたとき、「ヘルシンキの仕事はうまくいったな」と当時の自分の心の中を見た感じがした。「その年を予定通りフランス一周し快よく明年へと繋げよう」、そんな心がそこにあった、な…、その様に見えた。

なお、このフィンランドでの仕事に赴く直前まで、当時提携していたイタリアのG社との仕事が南部イタリアであり、それを完成させてのフィンランド出張であった。地中海で一週間進め、ドイツで1日、次作業の段取りをして即フィンランドに向かい、それを終えて休暇に入る。こ



図6. 朝日浴びる南仏ニースのプロムナード
今日これからのアルプス峠越えを控え、相対するその厳しい自然との闘い方を心に準備しながら、「さあ一つ」と気持ちを高めたいとき…。

の様に当時の動き様を参照しながら、自分スケジュールで動いているこの現在時間の使い方は大いに修正しなければと、今回の草稿にあたり顧み、改めて人生の進め方の反省へと入っていったものである（感謝）。

この様に今から思えばシビアな日々の生活自体がバックグラウンドにあり、それが故にフランス一周（はできる）へと考えが膨らんでいった、どうもその様である。

さて、どのように“一周”するか、これに時間の必要はなかった。

“先ず西＝大西洋へ向かう、目的地はドーバー海峡の町カレイ、そして大西洋岸に沿って南下”

このどこへどのくらいの日程で行くかの基準は日頃の行動時間・日程で、1hr/100kmがある。これは仕事仲間のドイツ人から教わったことで、平道も含め1hr/100kmが基準である。

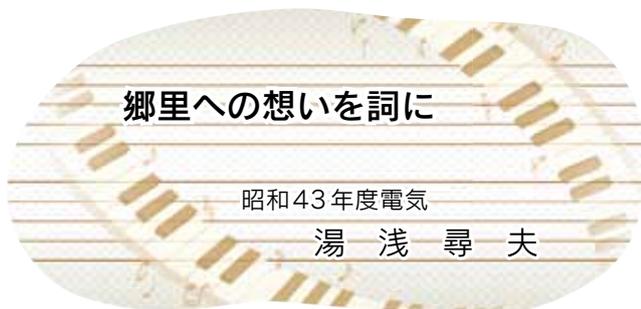
当時ハンブルグへの日帰り出張がよくあり、片道3時間であった、即ちハンブルグまで300kmとの基準値をもって計算を進めた。実は最近 Net で調べてみるとハンブルグまで400km（所要時間4時間40分が基準値）と紹介

されていたので、当時の私らの走行は基準値より3割以上速く走っていたことになる。いずれにせよ、かのアウトバーンは安全で素晴らしい。

ドーバー海峡へは実際のところカレイの一つ北の町ダンケルクを目指し、大西洋岸に沿って南下してカレイの町へ、そのトンネル工事の町カレイは小雨そぼ降る風情の中であった。（続）



図7. 断崖絶壁迫るアルプス峠を越える
ほぼ黒白の世界、この時節、峠越えの車は少ない



新型コロナ禍で著しく行動が制限され、変化に乏しい日々を過ごしております。皆様はいかがお過ごしでしょうか？

古希を迎えてから早いもので、3年が経ちました。この歳になると、これまで生きてきた証を何か残しておきたい衝動にかられることがあります。10年日記をつけたらどうかと友人に勧められ、日記を購入したものあと何巡り書き残すことが出来るのか、毎日書くことがないので意味がないと、あえなく中止。回顧録、随筆、俳句、川柳、詩などに挑戦したものの、才能がないことを悟り、進展せず。エンディングノートを書くにはまだ早いし…

その様な事を模索している最中、あるキッカケで作詞（作詩ではない）をするようになりました。

この3年間で作った詞は8曲です。一人悦に入っておりますが、誰かに見てもらいたい、聞いてもらいたいとの思いは、習い事、作り物している人の常なのでしょうが、この紙面を借り、皆様に紹介させていただく次第です。

最初の曲は「阿波ゆらゆらり」

上板町出身で、東京から那賀町に移住された三味線奏者 藍さんとの出会いと交流から生まれた詞で藍さんが作曲され、2020年2月、阿波銀ホールでの公演で初披露されました。（DVDに収録）

中学の古希の同窓会で、藍さんに演奏をお願いした折、いただいたCD「阿波の歌・お座敷歌」に収録されている「西祖谷の粉ひき節」で、祖谷のかずら橋が揺れる様から発想を得て作りました。

2曲目は「相生の二人」

少年時代を過ごした相生町での思い出から、若い二人の恋模様を、地名を盛り込み作りました。この詞も藍さんの曲がつき、You Tube に動画投稿され公開中です。一度、視聴してみてください。徳島新聞の文化欄に取り上げられ、FM徳島の番組でも、彼女が出演され紹介されました。

調子にのり、「相生の二人 その後」で、残った地名を入れ、二人の成長を書きました。超地元志向の詞です。

また、母親への思い出を綴った「僅かな記憶」、帰省した時に感じる郷里の風景や方言への違和感をかいた「異郷人」、田舎に何かを積み残してきたような不思議な感覚の「積み残し」を作りました。

テレビで観た、越中おわら節・風の盆から思いついた「那賀の相生節」は地元で歌い継がれる歌があってもよいのではと、地元友人に働きかけ作詞の募集し、5曲集まりました。

最近作った曲は、地元の風景・草花を女性にたとえた「想い花」です。作詞をしてみると、苦労するのはテーマを探し、考え、そして絞り込むことです。仕事と相通ずるものです。

紹介した通り、いままで作った作品は、故郷の情景を

詠った詞が中心になります。生まれ育った故郷の文化や人情、風情を少しでも伝え残すことに貢献できれば本望です。

今回は4曲を紹介させていただきます。暇つぶしにどうぞ！

阿波ゆらゆらり

湯浅尋夫

清掻奏でる 三味線の音に
行こか度ろか 思案橋
富田夜見世の 灯がともる
川の柳はヨ 風もないのに ゆらゆらり

よしこの囃子が 波打ち響く
踊り出待ちの 女衆
編み笠越しに 見え隠れ
板の笹舟はヨ 風もないのに ゆらゆらり

山か裾野か それとも谷か
霧が深くて わかりませぬ
峠越えれば 主が待つ
祖谷のかずら橋はヨ 風もないのに ゆらゆらり

瀬戸と黒潮 つながりながら
時が過ぎれば 渦をまく
鳴門大橋 仲をもつ
鯛釣り舟はヨ 風もないのに ゆらゆらり

相生の二人

湯浅尋夫

王子神社のだんじり道
吉野から高丸越えて
入野の里は中山の先

白心狸も心配顔
那賀の流れを下に見て
広がる茶畑深みどり

交す言葉少ない二人
うまつぎ坂の二人
標に付む二人

池の水面に月映る
通りの灯りに身を寄せて
左 鮎川 右 延野

先に帰ってよ
先に帰ってよ
先に帰ってよ

いつ会えるん 今度
いつ会えるん 今度
いつ会えるん 今度

那賀の相生節

湯浅尋夫

(ア〜)
紺の餅に 姉さんかぶり
茶摘み娘の 年知らず

相生番茶の 味が増す
(よ〜い てんてん つくてん)

(ア〜)
高丸峠 超えるまで
見送りします どこまでも
許されるなら 家までも
(よ〜い てんてん つくてん)

(ア〜)
阿波の女と 呼ばれていても
愛しい人には 弱いもの
涙みせます 甘えませ
(よ〜い てんてん つくてん)

(ア〜)
若に割かれた 流れが元
下で一つに なるように
二人の那賀も 元の鞘
(よ〜い てんてん つくてん)

想い花

湯浅尋夫

その陰間に 咲くシヤガの花
隠れ人待つ それに似て
意地を通して 徒となる

王子の谷に 咲く山百合の
そばかす模様 愛らしく
観る人少なく 薫り立つ

アイアイランドに 咲く山紫陽
花
浴衣美人の 立ち姿
濡れて益々 艶を増す

延野の里に 咲く赤鶏頭
沈む夕日に 想い寄せ
手筒花火の 影と化す



ベアリング製造会社に入社して、20年目にアメリカへ海外駐在員として渡米した。赴任先は、サウスキャロライナ州のオレンジバーグにある工場で、従業員は500人程度。業務内容は設備機械（熱処理炉、旋削機、研磨機、組立機、洗浄機、搬送設備等）の電気関係の保守・点検・改善とスペアパーツの管理を現地エンジニアに指導した。設備は日本製です。滞在期間は5年間（1991/1月～1995/12月）でした。

当初は、単身で3年間の予定でしたが、1年経ったときに、妻が仕事を辞めて娘2人を連れて来た。家族帯同の場合は5年間なので、2年間延長となった。

娘2人の長女は高1を終了し、次女は長女と同じ高校の入学手続きをし、休学して渡米した。

（休学したのは、現地の高校に合わなかったら、元の高校に復学可能なので）



工場の状況

私のニックネームは、名前の頭文字から「KURT」でした。「R」の発音が難しかった。作業者は、白人・黒人・南米人・ベトナム人・中国人・インド人等の様々な人種がいた。

現場の勤務体制は、3交替で1直の者は1直のまま、また週給制なので頻りに辞めるため単純作業しかできない。動力用電圧（3相4線式）は480V、電灯用は277Vでコンセントは120Vです。夏場の工場内は、ガンガンに冷やしているので、日本人には寒すぎた。男性は年中Tシャツで過ごしていた。不定期に麻薬の尿検査を日本人も含めて実施していた。

指導したエンジニアは2人で、2人共私が帰国するまで辞めないでいてくれた。その内の1人（TODD）は、今でもクリスマスカードの交換をしている。

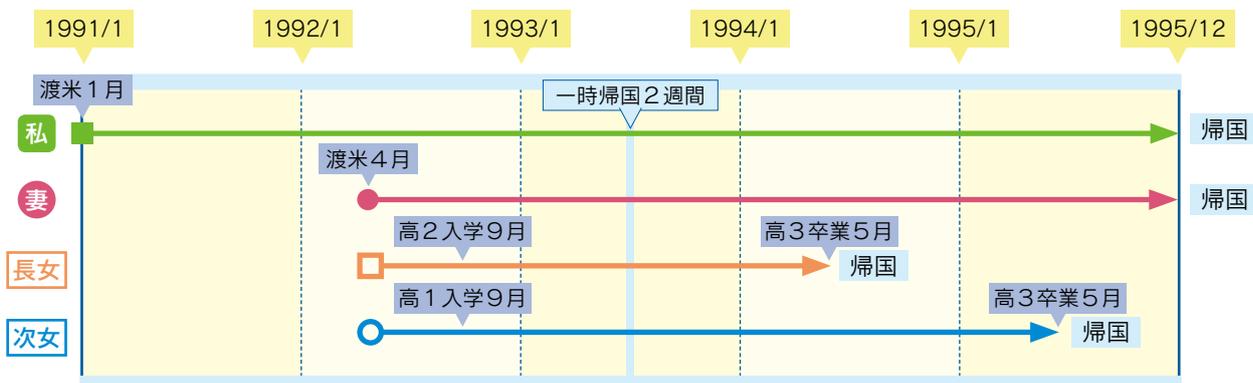
住居

一戸建てで庭が広くて、夏場の隔週の芝刈りが大変でした。洗濯物を屋外に干す習慣がない。庭に時々、リスが現れていた。部屋の照明が全て白熱電球で暗かったので、居間だけを蛍光灯を買ってきて付け替えた。道を隔てた1人暮らしのおばちゃんの家があり、ある日子猫を持ってきて育ててほしいと頼まれた。飼うことになったものの帰国のときにどうしようか迷ったが、妻が日本に連れて帰ろうと言い、結局連れて帰ることになった。猫は検疫がないので空港から連れて帰れたが、途中乗り換えがあり、猫がはぐれてその日の夕方家まで届けてくれた。

気候

亜熱帯気候なので、年中温暖で過ごしやすいが、夏場はとにかく暑いし、スコールと言って急に前方が見えないくらいのドシャ降りになったと思うと、少ししたらカラッと晴れる。運転中だと大変。また、一度だけ雪が降ったことがあり、娘たちが雪だるまを作っていた。

家族のアメリカ滞在状況



夏場は松の花粉が多く飛散して、ゴルフの帰りには車の上が真っ黄色になっていた。

妻と娘2人

妻の英語習得は、週一回教会で退職した女性の先生たちがボランティアで教えてくれた。運転免許は、3人共運転免許センターで取得した。方法は自家用車で連れて行き、まずはテレビでの学科試験に合格すると、今度は路上運転で、受験者が運転席に乗り、試験官が助手席に乗って、一般道路を運転した。途中で車庫入れと3ポイントターンをして帰って来た。受験料は10ドル程度だったと思う。娘2人のアメリカでの運転免許証は日本で有効でした。

長女は2年間、次女は3年間現地の私立高校（1クラスは15人程度）を無事に卒業、なお、卒業式は夜に行なわれて、幸運なことに2人ともスピーチしました。その後日本に帰国して予備校に通い、大阪の帰国子女枠のある大学に入学できた。卒業後は大阪で就職していたが、2人とも結婚して、関西で暮らしている。

車、運転

私の車はトヨタの新車を購入（自費）し、家族の場合は2台必要なので、もう1台は帰国する駐在員のアメ車を譲ってもらった。

ガソリンは1ドル/ガロン（約4L）で、非常に安く、車検制度はなし。自分で給油してレジで給油口の番号を言って支払った。（現在は、3ドル/ガロンで、先払いになっている。）

運転は右側通行で運転席は左側にあり、左折・右折時に慣れないと反対車線に入ってしまう。そこで、教えてもらったコツは、常に運転席側が道路の中央にくるように運転する。交差点で右折する場合は車が来なければ、赤信号でも右折できた。

信号機は縦長で、道路の両端にロープを張って吊り下げているので、ブラブラしていた。

踏切は一旦停止しなくてよい。また、貨物列車に遭遇したら数十両も連結しているので数分かかる。

日本の有名人との出会い

① ハナ肇さん

単身赴任時、数人でアトランタに旅行したとき、夜にレストランで会った。日航ホテルのオープニングに招待されたとのこと。みんなに1万円ずつくれました。

② 岸本加世子さん

コロンビア（サウスキャロライナの州都）のモールで会った。映画撮影のために来ていた。

③ 前の天皇陛下と美智子様

チャールストン空港にて、すぐ近くで拝見できた。近くに住んでいる日本人が大勢来ていた。駐在員の奥さんが美智子様と話していた。



アトランタのレストランでハナ肇さんと（1991年）



チャールストン空港にて、前の天皇陛下と美智子様にお会いできて、次女に「ここは楽しいですか」と問いかげられた。（1994年）

④ 尾崎将司さん

オーガスタナショナルのマスターズ観戦で見ました。フェアウェイ全体がグリーンのように整備されていて、すごく綺麗でした。

家族旅行

当時はナビがなかったので、地図を見ながらでした。地図は州境にあるビジターセンターでゲットした。

① ディズニーワールド、ディズニーシー、USJ（フロリダ州、車で）3回行った。

ディズニーシー、USJは開園初期のころ。ディズニーワールドの駐車場は広大で、駐車場所を覚えておかないとわからなくなる。入口までは、トロツコのような乗物が周回していた。

② ワシントン（車で）

博物館、美術館、国会議事堂、リンカーン記念堂（演説のコピーを購入）（博物館、美術館の入場料は無料）

③ ニューヨーク（飛行機で、空港 → ホテルはイエローキャブ）

タイムズスクエアのカウントダウン、ロックフェラーセンターのクリスマスツリー、オペラ鑑賞（オペラ座の怪人）、バスでの市内観光（自由の女神、国連等）

国連では、「兼高かおるさんの世界の旅」のパネルを展示していた。

④-1 イエローストーン国立公園（ソルトレークシティまで飛行機 → レンタカー）

間欠泉、地面から硫黄が噴き出していた。途中、バツファローが道路を横断していた。

- ④-2 グランドティートン国立公園
丸太小屋で宿泊して、団体で湖のほとりで BBQ。
- ⑤-1 ザイオン国立公園（ラスベガスまで飛行機 → レンタカー）
飛行機の到着が遅れて、真っ暗な一般道路を走っていたら、パトカーに捕まったが、何とか許してくれた。アメリカは、初犯は許してくれる。
- ⑤-2 モニュメントバレー
映画のロケ地で有名、近くのモーテルで宿泊して、翌朝に景色を見た。ここは、インディアンの居留地であり、マクドナルドに寄ったら居ました。
- ⑤-3 グランドキャニオン国立公園
行く途中、砂漠のような草木もなく、でっかいサボテンが生えているだけで、遠くまで見えた。
- ⑥ キティーホーク（ノースキャロライナ州、車で）
ライト兄弟の初飛行場所。
- ⑦ ケネディ宇宙センター（フロリダ州、車で）
- ⑧ ストーンマウンテン（ジョージア州、車で）
巨大な岩の上まではロープウェイに乗り、アトランタの町が一望できた。岩の側壁には、3人の将軍が彫られていた。また、周囲は鉄道が走っていた。
- ⑨ チャールストン（サウスキャロライナ州、車で）
奴隷が売買されていた旧奴隷市場があり、土産物店になっていた。近くに旧奴隷博物館もあった。
- ⑩ ニューオーリンズ（ルイジアナ州、飛行機で）
フレンチクォーターのバーボンストリートでジャズを聴いた。朝、広場で四角いドーナツ「ベニエ」とカフェオレをオーダーした。娘2人が帰国して夫婦2人で行った。

戦争花嫁(占領下の日本に来たアメリカ兵と結婚して渡米)

オレンジバーグに3人いて、白人と結婚した人が1人、黒人と結婚した人が2人いた。白人と結婚した人の家に妻と招待されたことがあるが、裕福そうな感じでした。近いうちに州都のコロンビアに引っ越す予定でした。

外 食

なるべく日本食は食べずに、現地のマクドナルド、タコベル、バーガーキング、中華料理、ピザハット、ケンタッキー・フライド・チキンでした。

ウォータースキー

TODD が一度湖へウォータースキーに連れていって来て何度かトライしたが、結局立てずにできなかった。水をたらふく飲んでしまった。

マナー

- ① 食事中は音を立てないこと。
- ② ドアから入るか出るときに後続者がいれば、ドアを支

えておく。

- ③ 外食時にテーブルに料理を運んでもらったら「チップ」が必要。1ドル札を常備しておく。
- ④ ゲップはダメです。

各費用の支払い

光熱費、電話代、学校関係は銀行発行の小切手（チェック）で支払い処理。

阿波踊り

- ① ノースキャロライナ州シャーロット（州都）の日本人祭り、駐在員家族がアメリカ人も含めて参加した。
- ② 工場近くの公立高校で駐在員と派遣者（短期技術支援）が体育館で踊った。

ハリケーンアンドリュー

1992 / 8月 フロリダ州マイアミに上陸して西方向に進んでアメリカ災害史上2位の被害を出した。オレンジバーグから南東方向に車で2時間程度走るとチャールストンがあり、その海岸線が大きな被害を受けた。様子を見に行ったが道路が封鎖されて入れなかった。途中、復旧用の車両が向かっていた。

湾岸戦争

イラクによるクウェート侵攻をきっかけに起こった戦争で、戦場に送られた兵士の帰りを待ちわびているという思いを表示するために、玄関に「黄色いリボン」を飾っていた。

有名なゴルフコースでプレー

- ① ヒルトンヘッドのハーバータウン（サウスキャロライナ州）
小平 智プロが優勝したコース
- ② キアワアイランドのオーシャンコース（サウスキャロライナ州）
2021年全米プロゴルフ選手権の開催コース。
- ③ パインハースト（ノースキャロライナ州、9コースある）
No. 2コースはアメリカで最も多くチャンピオンシップが開催されたコース。

よるず
伝言板

高専制度創設60周年記念事業について

特設 HP はこちら

<https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/60th/>

是非ご覧ください。

No. 2コースはプレーできず、No. 3 & 4コースをプレーした。当日はNo. 3コースをプレーして、その夜は、クラブハウスで正装してディナーし、翌日はNo. 4コースをプレーした。

- ④ アトランタ近郊のゴルフコース(コース名は忘れました) 岡本綾子プロが優勝したコースで、写真が飾ってありました。

追記) オレンジバーグの工場は2021/3月に閉鎖された。製造していたBRGがHUBに移行したためオレンジバーグから北に車で1時間程度にある「リッチランド工場」でHUBを製造している。

工場は、一棟で広さは250 m × 250 mで、かなり広い。

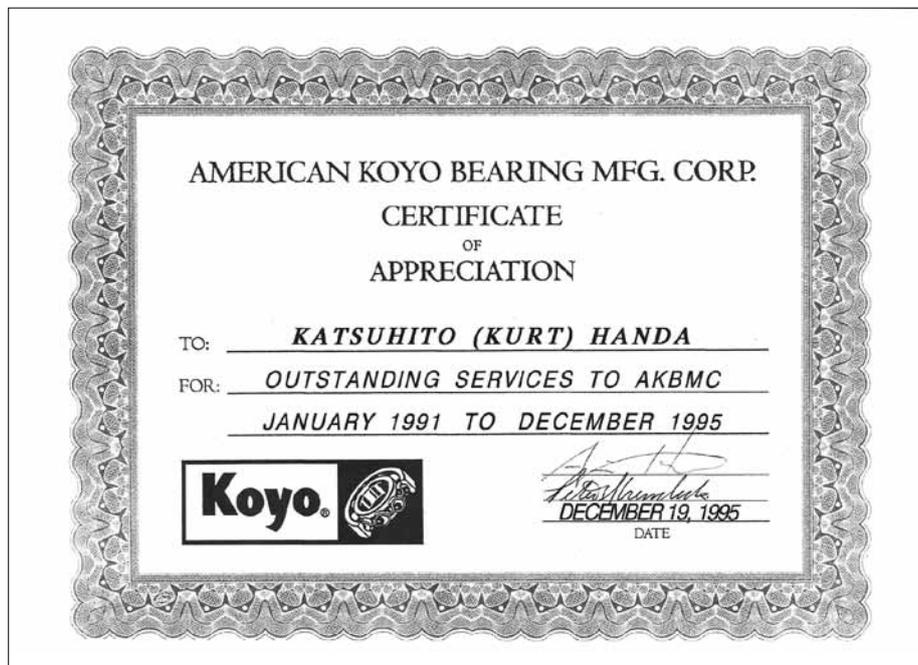
2017/5月～7月の3か月間、リッチランド工場に短期技術支援(7人)の一員として再渡米した。リッチランド工場でオレンジバーグ工場にいたエンジニア2人とメンテナンス1人に再会できた。



リッチランド工場のWILLIAMS(メンテナンス)と私帰国後、Face timeで、2度ビデオ通話した(2017年)



5年間の駐在で、もらった表彰盾 枠は州の形をしている。 中央はオレンジバーグ工場。(1991～1995年)



現役クラブだより

…体育部…

テニス部

テニス部は現在総部員数41名で活動しています。新たに1年生が11名(男子9名、女子2名)入部しました。今年は未経験者が多いですが、日々練習を重ね、試合ができるほどに成長しています。

本年度も引き続き、新型コロナウイルスのため、思うような活動ができませんでしたが、限られた時間の中、それぞれが工夫して練習を行ってきました。その結果、四国地区高専大会では女子シングルス準優勝、女子ダブルス優勝、全国高専大会では女子シングルス3位、女子ダブルス準優勝という輝かしい成績を収めることができました。また、高校の大会でも、女子シングルス・ダブルスともに準優勝するなど、阿南高専始まって以来の快挙がありました。

日頃の練習におきましては、高学年と低学年、男子と女子の垣根なく和気あいあいとした雰囲気です。一方で、それぞれの自立を目指した方針の中で、練習メニューを自分たちで考えたり、上級生が下級生に丁寧な指導をしている姿もよく見られます。高専のクラブ活動として、有意義な時を過ごしているように思います。

最後に、今年の8月24日(水)～26日(金)に全国高専体育大会テニス競技が阿南高専の担当で開催されます。会場は大神子テニスセンターを予定しておりますので、是非学生たちの勇姿をご覧ください。また、皆様の応援とご支援をいただければ幸いです。今後ともテニス部をよろしくお願いいたします。

令和2年12月～令和3年12月までの活動状況をお知らせします。

1. 顧問・コーチ

主顧問：中島(一般)

原野(機械)、高岸(技術部)、長田(建設)、
錦織(一般)、小林(電気)

外部コーチ

シオンテニスクラブ河野一郎・阿紀子両氏との連携は11年目となりました。テニス部の躍進には欠かせない連携となっています。

2. 部員

5年生5名、4年生10名、3年生8名、
2年生7名、1年生11名

3. 部長

男子 矢野 大輝(4E)

低学年キャプテン 尾田 拓夢(2E)

女子

低学年キャプテン 宇津 和奏(2E)

4. 練習時間

月火木金の放課後(16時15分～18時30分)

土(8時30分～11時30分)

5. 令和2年12月～令和3年12月までの主な試合成績は次のとおりです。

◆第58回四国地区高等専門学校体育大会

男子団体 準優勝

(岡田莉右(4M)・鹿島悠矢(3E)・矢野大輝(4E)・吉川 光(3M)・多賀原奏真(3M)・尾田拓夢(2E)・浦 大輝(2C)・石田絢也(2M)・美馬歩嵩(3I)・北野敦己(3I))

男子ダブルス 第3位 岡田莉右(4M)・鹿島悠矢(3E)

女子シングルス 準優勝 宮内優衣(1-1)

第3位 稗田華子(4M)

女子ダブルス 優勝 稗田華子(4M)・宮内優衣(1-1)

◆第44回全国高等専門学校体育大会テニス競技

女子シングルス 第3位 宮内優衣(1-1)

女子ダブルス 準優勝 稗田華子(4M)・宮内優衣(1-1)

◆徳島県高等学校新人テニス大会

女子シングルス 準優勝 宮内優衣(1-1)

女子ダブルス 準優勝 宇津和奏(2E)・宮内優衣(1-1)

(テニス部顧問 中島 一)



第58回四国地区高等専門学校体育大会
令和3年7月4日

陸上競技部

OB & OGの皆さん、陸上競技部の近況をご報告いたします。2021年(令和3年)の陸上競技部は、主将の橋本渉太郎(3Z)君を筆頭に、4月に一年生の新入部員3名(男子選手1名、女子マネージャー2名)を加えて新たにスタートしました。顧問教員は、谷中俊裕(一般教養:英語)先生、松尾俊寛(一般教養:物理)先生、大北先生(機械コース)、伊丹伸(機械コース)の4名体制を維持しています。外部コーチは、昨年に引き続き陸上競技部OBの麻植一輝さんをお願いしています。

2021年3月に長年待ちわびていた徳島県南部総合運動公園陸上競技場(阿南市桑野町)が完成し、3月20日に完成記念セレモニーイベントが行われました。その完成記念の男子100mレースに陸上競技部から2名が選出され、真新しいトラック上を疾走しました。本陸上競技場は4月より供用が開始されています。すばらしい環境の陸上競技場なので、ぜひ一度立ち寄ってみてください。

さて、2021年の陸上競技部の活動状況を振り返ってみます。まずは、何といたっても今年の目標に掲げていた福井インターハイに、黒田凜(3C)さんが女子800mで出場したことです。陸上競技部所属の女子選手としては初の快挙で、インターハイ出場者はこれで通算7名になりました。黒田さんは他にも、女子第28回四国駅伝競走大会の徳島県女子チームの一員に選ばれ、第4区で区間2位(記録10'05")と健闘しました。また、2021年第6回徳島中・長距離記録会の女子3000m A組で9'57"98の1位となり、皇后杯第40回全国都道府県対抗女子駅伝の徳島県女子チームの一員にも選出されました。

次に高専大会関係です。第56回全国高専体育大会陸上競技では、男子砲丸投で坂野翔哉(4C)君、女子800mで黒田さんが優勝(2連覇)、女子3000mで黒田さんが2位と全部で3個の個人メダルを獲得しました。その予選会となった第58回四国地区高専体育大会陸上競技では、僅差(3点差)で5連覇は達成できませんでしたが、男女合わせて個人種目3種目で優勝しました。一般大会関係では、4月に行われた第60回全日本競歩輪島大会の男子全日本10km Wに出場した島田史也(2AM)君が、徳島県新記録を樹立しました。島田君はこの功績が認められ、2021年一般社団法人徳島陸上競技協会優秀選手(一般男子)に選出されています。昨年も選出されており、2年連続の快挙です。

ところで2021年は東京2020オリンピックが行われましたが、陸上競技部からは栗原辰光(4I)君が聖火ランナー、黒田さんがサポートランナーを務めました。両名にとっては非常に良い記念になったと思います。

最後に、2022年(令和4年)の目標を挙げておきます。四国地区高専体育大会陸上競技(西条市)の総合優勝、全国高専体育大会陸上競技(愛媛県で開催予定)の複数の個人種目でメダル獲得などを目指しています。今年は、いよいよインターハイ陸上競技が51年振りに徳島県(鳴門市)で開催[8/3(水)~7(日)の5日間]されます。お時間のある方

は、高校日本一を決定する大会ですのでぜひ観戦に来てください。OB & OGの皆さん、これからも阿南高専陸上競技部への御支援、御指導ならびに応援よろしく願いいたします。

以下に2021年に出場した各大会での上位入賞者の種目&順位&記録を列記しておきます。

《一年間の主な戦績[2021年(令和3年)1月から12月まで]》

◆女子第27回徳島県高等学校新人駅伝競走大会

令和3年2月7日

(鳴門・大塚スポーツ周辺長距離走路[臨時])

徳島北・海部・阿南高専合同チーム

・第2区(2.88km) OPEN 黒田凜(2C) 10'10"

◆徳島陸上競技カーニバル

令和3年4月10日~11日

(鳴門総合運動公園第2陸上競技場)

・男走高跳 第2位 大前雄三(3M) 1m75

第5位 森麗央(3M) 1m65

・女800m 第1位 黒田凜(3C) 2'24"12

・女1500m 第5位 黒田凜(3C) 4'56"00

◆第60回全日本競歩輪島大会

令和3年4月10日(道の駅輪島ふらっと訪夢往復コース)

・男全日本10km競歩

第7位 島田史也(2AM) 42'34"

〈徳島県新 阿南高専新 自己新〉

◆2021年第2回徳島中・長距離記録会

令和3年5月8日(鳴門総合運動公園第2陸上競技場)

・女1500m A組 第3位 黒田凜(3C) 4'53"07

◆第61回徳島県高等学校総合体育大会陸上競技

令和3年6月5日~7日(鳴門総合運動公園第2陸上競技場)

・男走高跳 第1位 大前雄三(3M) 1m87(自己新)

・男やり投(0.800kg)

第5位 橋本渉太郎(3Z) 39m17(自己新)

・男八種競技 第1位 森麗央(3M) 4338点

〈阿南高専新〉

・女800m 第1位 黒田凜(3C) 2'18"95

・女1500m 第1位 黒田凜(3C) 4'45"68

〈阿南高専新 自己新〉

◆第74回四国高等学校陸上競技対校選手権大会

令和3年6月19日~21日(愛媛総合運動公園陸上競技場)

・男走高跳 第9位 大前雄三(3M) 1m83

・男八種競技 第7位 森麗央(3M) 4272点

・女800m 第5位 黒田凜(3C) 2'17"96

予選 黒田凜(3C) 2'16"68

〈阿南高専新 自己新〉

◆第92回徳島県陸上競技選手権大会

令和3年7月3日~4日(鳴門総合運動公園第2陸上競技場)

・男800m 第7位 森内拓磨(5M) 2'01"63(自己新)

・女800m 第2位 黒田凜(3C) 2'17"25

・女1500m 第7位 黒田凜(3C) 4'45"91

◆第58回四国地区高等専門学校体育大会陸上競技

- 令和3年7月17日～18日(西条市ひうち陸上競技場)
- ・総合 第3位 得点:75点
 - ・男800m 第2位 森内拓磨(5M) 2'02"16
 - ・男1500m 第3位 森内拓磨(5M) 4'18"98(自己新)
 - ・男110mH 第2位 上岡暉和(3C) 17"89(自己新)
 - ・男4×100mR 第3位 44"88
橋本(3C)、森(3M)、三居(2M)、大前(3M)
 - ・男三段跳 第3位 高橋愛一郎(4M) 11m40
 - ・男砲丸投(6.000kg) 第1位 坂野翔哉(4C) 13m17(3連覇)
 - ・男円盤投(1.750kg) 第1位 坂野翔哉(4C) 30m99(3連覇)
 - ・男やり投(0.800kg) 第2位 坂野翔哉(4C) 45m58
 - ・女800m 第1位 黒田 凜(3C) 2'17"89
(大会新 2連覇)
 - ・女砲丸投 第3位 森 希美香(4M) 6m02(自己新)

◆令和3年度第2回徳島県陸上競技強化記録会

- 令和3年7月22日(鳴門総合運動公園第2陸上競技場)
- ・男棒高跳 第1位 谷 知篤(5C) 4m00

◆令和3年度全国高等学校総合体育大会陸上競技大会(福井インターハイ)

- 令和3年7月28日～8月1日(9.98スタジアム)
- ・女800m 予選 黒田 凜(3C) 2'18"12

◆第76回国民体育大会徳島県選手最終選考会

- 令和3年8月7日(鳴門総合運動公園第2陸上競技場)
- ・男成年5000mW 第1位 島田史也(2AM) 23'41"13
 - ・女成年800m 第1位 黒田 凜(3C) 2'17"83

◆第56回全国高等専門学校体育大会陸上競技

- 令和3年9月4日～5日(キューアンドエースタジアムみやぎ)
- ・男砲丸投(6.000kg) 第1位 坂野翔哉(4C) 13m91
 - ・男やり投(0.800kg) 第5位 坂野翔哉(4C) 46m72(自己新)
 - ・女800m 第1位 黒田 凜(3C) 2'23"35(2連覇)
 - ・女3000m 第2位 黒田 凜(3C) 10'33"75

◆第10回徳島陸上競技秋季カーニバル

- 令和3年10月30日～31日(鳴門総合運動公園第2陸上競技場)
- ・男棒高跳 第1位 谷 知篤(5C) 3m80
 - ・女800m 第1位 黒田 凜(3C) 2'19"24

◆女子第28回四国駅伝競走大会

- 令和3年11月21日
(鳴門・大塚スポーツパーク周辺長距離特設コース)
徳島県女子チーム
- ・第4区(3.0km) 第2位 黒田 凜(3C) 10'05"

◆2021第6回徳島中・長距離記録会

- 令和3年12月5日(鳴門総合運動公園第2陸上競技場)
- ・女3000m A組 第1位 黒田 凜(3C) 9'57"98
(阿南高専新 自己新)

◆2021第26回西日本地区高等専門学校駅伝競走大会

- 令和3年12月28日(東広島運動公園陸上競技場)
- ・女3km ロードレース 第1位 黒田 凜(3C) 11'20"

◆2021年一般社団法人徳島陸上競技協会優秀選手

- 一般男子の部 島田史也(2AM) (2年連続)
(陸上競技部顧問 伊丹 伸)

…文化部…

吹奏楽部

昨年度はコロナ禍のため多くの行事が取りやめとなり、吹奏楽部としての活動をほとんど行うことができませんでしたが、今年度は新型コロナウイルス感染防止対策を行い、徐々に活動を増やしました。今年度は野外での演奏機会をつくり、春から夏にかけて放課後を使ってフェニックス広場にてプチコンサートを行いました。11月には高専祭(今年度は外部からの入場なし模擬店なし)が開催され、吹奏楽部は6日午後、フェニックス広場で演奏しました。

昨年度は中止となった四国地区高専総合文化祭、今年度は香川高専高松キャンパス主管により、12月18日～19日、部門別にユープラザうたづで開催されました(宿泊なし日帰り)。本校吹奏楽部は、最近の曲「ノーダウト」「夜に駆ける」「感電」とクリスマスソング「クリスマス・イブ」「Last Christmas」「サンタが街にやってくる in Swing」を演奏し、審査の結果、優良賞を受賞しました。

2022年1月には3年ぶりに徳島県アンサンブルコンテス

トに出場しました(美馬市交流センターミライズ)。管打楽器八重奏、「RUBBER DUCK RACE～おもちゃのあひるの大冒険～」を演奏し、結果は銅賞でした。

今後もしばらくは制約の中で活動することになると思いますが、工夫して演奏を続けていきたいと思います。今後ともよろしくお願いいたします。

(吹奏楽部顧問 錦織浩文)



茶 道 部

茶道部 OB・OG の皆さま、お元気でご活躍のことと存じます。茶道部は現在部員 14 名（5年4名、4年4名、2年2名、1年4名）で活動しています。残念ながら3年生部員は依然として不在です。

昨年度は新型コロナウイルス対応のために、かなり活動が制限されていましたが、今年度は一時中断期間があったものの、学寮の教養講座も実施されており、講座のお手伝い（月曜の夜）を中心に、毎週2回ずつ、高志会館2階和室で部員たちはお点前の稽古をしています。教養講座の日には亀井かよ先生・林 初音先生も来校されて、熱心にご指導いただいています。また、茶道部 OB の桑村憲治専門職員にも引き続きいろいろご助言いただいております。顧問は私（藤居）のほか、機械コースの大北裕司先生が担当しています。

以下、今年度の行事を報告します。例年実施している春と冬のチャリティー茶会は、新型コロナウイルスの感染状況を踏まえて、今年度も残念ながら中止としています。11月の高専祭（外部からの来訪を制限して例年よりも規模を縮小して1日だけ実施したため蒼阿祭ではなく高専祭として実施）では、女子学生による恒例の和服によるおもてなしはできませんでしたが、お茶会を開くことができ、多くの学生・教職員が来会してくれました。

12月には総合文化祭（香川高専高松キャンパス主催）があり、こちらも新型コロナウイルス対応でいろいろ制限があったなか、日帰りでお茶席を実施することができました。ただ、参加校は香川高専高松キャンパス・高知・阿南の3高専のみで、お点前を披露できたのは香川と阿南のみでした。

学寮の教養講座以外の今年度の茶道部の主な活動状況です。

- ・ 11月 高専祭 お茶席
- ・ 12月 四国地区高専総合文化祭（香川高専高松キャンパス） お茶席

部 長 上田 楓（情報コース4年）
顧 問 藤居岳人（一般教養）、大北裕司（機械コース）

部員はやや少人数にはなっていますが、例年どおりに和気藹々とした雰囲気のもとお稽古に励んでいます。新型コロナウイルスの状況はまだ予断を許しませんが、できるだけ早くこれまでのような活動ができることを願っています。今後とも OB・OG の皆さまにはご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。また、このような状況下でございますので、OB・OG の皆さまもくれぐれもご自愛ください。

（茶道部顧問 藤居岳人）

プログラミング研究部

プログラミング同好会の OB・OG の皆様、お変わりなくお過ごしでしょうか。プログラミング同好会は、今年度より同好会から部に昇格し、プログラミング研究部として引き続き活動しております。主顧問も吉田 晋先生から私（太田健吾）に引き継ぎを行い、これまでの伝統や OB・OG の皆様との絆を受け継ぎながら、新たな取り組みにも挑戦していきたい所存です。

さて、今年度も新型コロナウイルス感染症の影響により、第32回全国高専プロコン秋田大会はオンライン開催となりました。阿南高専は、「楽しく学び合える！」をテーマとした課題部門において、「Let's Aidea!（れっつ・ええあいであ）」と題して、AIと一緒にゲームを楽しみながら言葉の表現力を高めるシステムを提案したチームが予選を通過しました。

挑戦的な構想が高く評価された一方で、システムの実際の開発が本格的にスタートしたのは予選通過直後であり、厳しい開発スケジュールではありましたが、2年生から5年生までワンチームで協力し合い、コアとなる AI 機能や UI の開発、アピール動画の撮影に懸命に取り組みました。コロナ禍により、対面で活動できる期間は限られましたが、Slack や Google Meet などを活用したオンライン合宿を夏休み期間中に実施し、直接顔を合わせる機会が少なく中でも一体感を持って集中的に活動することができたと感じています。

本選のオンライン審査では、「表現力を高める」というシステムの目的の重要性は理解された一方で、システムのねらいや技術面の工夫を十分に伝えきれない部分もあり、惜しくも入賞は逃しましたが、大会に参加した学生は今回の経験から多くのことを学べたと思います。今後とも変わらぬご声援のほど、よろしくお願い申し上げます。

（プログラミング研究部顧問 太田健吾）



オンライン開発合宿

支 部
だより

悠久東京支部同窓会



悠久東京支部同窓会より

支部長（昭和48年度機械） 高橋保人

悠久東京支部支部長の高橋です。令和3年も新型コロナウイルス感染に関するニュースで大変な1年でした。何回か「緊急事態宣言」が発出され、その度に自粛を続け、外出もままならない状況が続きました。皆様におかれましてはかなりの負担を強いられたのではないかと思います。

その影響を受けて、東京支部は令和3年4月24日（土）に新宿住友ビル住友クラブで同窓会開催を予定しておりましたが、やむなく中止としました。毎年恒例のイベントでもありましたがとても残念でした。

次の同窓会の案内です。日程／場所は以下のように決

めましたので是非参加をお願いします。実施できることを願っています。

日 時：令和4年4月23日（土） 13時開始

場 所：いつもの新宿住友ビル住友クラブ

詳細は別途ご連絡します。

同窓会に向けてのお願いです。

関東にいる卒業生は年に一度ですので、是非参加し親睦を深めて頂ければと思っています。先生方も、関東にいる卒業生の成長や会社の状況などの話ができる機会です。お忙しいとは思いますが参加をお願いいたします。

悠久徳島支部より



悠久徳島支部より

令和3年11月12日、第10回ゴルフコンペを開催しました。
（徳島カントリー倶楽部〈月の宮コース〉）



上段左より：白（2E）、中津（2E）、星場（30M）、薄墨（11E）、本田（11E）、大島（10M）、久米（11E）、市岡（6C）、木村（3M）、細井（2M）、武田（5M）、工藤（13E）、坪内（2E）、佐藤（7M）、林（2M）

中段左より：長野（6E）、亀田（6E）、久米（4M）、漆原（7C）、安平（7C）、大西（6C）、吉田（6E）、大森（10M）、細川（7M）、松尾（12C）

下段左より：森（7M）、芝原（7E）、中井（4M）、高橋（1M）、藤倉（1E）、林（1M）、鈴木（4E）、松原（4E）、藤岡（10C）、半田（4E）



「各種証明書」の発行事務についてのお願い

卒業生の皆様が、各種資格の取得、就職試験、進学受験、海外出張等をされる場合には、ほとんどの場合、本校に在籍し、または卒業・修了したことについて、各種の証明書が必要です。(卒業・修了・成績・履修・調査書など) これらの証明書を速やかに発行するため、以下のことにご留意・ご協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。

1. 各種証明書の発行申請について

各種証明書の発行は、「諸証明書発行願」により、学生課教務係へ申し込んでください。

この発行願は、教務係に設置しているほか、学校のホームページからダウンロードすることができます。提出するときには、押印が必要です。

2. 遠隔地からの発行申請について

県外在住など来校するのが難しい場合、下記のもの郵送して申し込むことができます。

① 「諸証明発行願」：発行願には下記のことを記載してください。

(ア) 必要な証明書の種類 (卒業証明書・成績証明書等)

(イ) 必要部数

(ウ) 使用目的・提出先

(エ) 氏名 (卒業時の名字)

※英文証明書が必要な場合は、パスポートどおりのローマ字表記を併記してください。

(オ) 生年月日

(カ) 卒業・修了学科

(キ) 卒業・修了年月日

② 返信用封筒

(ア) 郵便番号・宛先・宛名を記載してください。

(イ) 84円切手 (必要部数が多い場合は94円か120円) を貼ってください。

速達の場合は260円分を追加してください。

③ 身分証のコピー (免許証等)

3. その他

① 英文証明書や調査書の発行には、1週間～10日程度を要します。また、郵送の場合はさらに4日程度を要しますので、十分な余裕をもって申し込んでください。

② 緊急に証明書が必要な場合で直接窓口に来られるときは、事前に電話をいただけますと、お待たせせず証明書を発行できます。

※ 英文証明書・調査書・高等学校卒業程度認定試験に関する証明書は、即日発行できませんのでご了承ください。

③ 発行は無料です。郵送の場合は、郵送実費 (切手) のみ必要です。

④ 証明書の氏名は、本校卒業時氏名での発行となります。

各種証明書は、皆様ご自身に関する一身上の極めて重要な意味をもった公文書ですから、発行には慎重な事務手続きを期すとともに、皆様の要望に、円滑に対応できるよう努力いたします。申し込みの際には、上記のことをご協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。

■申請先■

〒774-0017 阿南市見能林町青木265
阿南工業高等専門学校 学生課教務係
電話 (0884) 23-7133
FAX (0884) 22-4232

この「よろず伝言板」は「悠久」の誌上を通じて会員相互の心の絆を深めるために設けたものです。何でも結構!! ふるって御投稿下さい。

悠久第55号原稿募集 (阿南高专悠久編集部)

阿南高专同窓会誌「悠久」も本号で第54号となります。最近では会員だよりの原稿を集めるのに苦労しています。来年度の55号を充実したものにすするため、皆様の楽しい便り、写真、マンガ、イラスト、俳句など、何でもかまいません。どしどし原稿をお送り下さい。量はA4版1枚に収まる範囲程度です(もちろん少ない原稿も歓迎します)。郵送もしくは左記のメールアドレスに添付ファイルにてお送りください。

編集委員一同首を長くして待っています。

編集委員

1 回機械	上田登志男 (徳島市)
1 回機械	福富正和 (阿南市)
1 回機械	林岩男 (藍住町)
2 回機械	林政憲 (徳島市)
2 回電気	中津清 (徳島市)
2 回電気	岡本満雄 (徳島市)
3 回機械	寒川和哲 (小松島市)
3 回機械	藤井美廣 (徳島市)
3 回電気	荒木敏雄 (小松島市)
4 回機械	中山茂樹 (徳島市)
4 回電気	平尾強一 (徳島市)
5 回電気	森尾忠敬 (徳島市)
6 回土木	上原豊 (鳴門市)
8 回機械	齋藤和志 (船橋市)
13 回電気	伊田達伸 (徳島市)
13 回機械	田中友文 (徳島市)
17 回機械	丹中達伸 (阿南市)

原稿送り先

〒774-0017
阿南市見能林町青木265
阿南高专内悠久同窓会事務局

メール送付先

dosokai@anan-nct.ac.jp
2022年11月13日必着

阿南高专卒業生数

() 内は女子数で内数 令和3年12月31日現在

卒業年度	卒業期	機械工学科 機械コース	電気工学科 電気電子工学科 電気コース	制御情報工学科 情報コース	土木工学科 建設システム工学科 建設コース	化学コース	合計
昭和42	1	80	38 (1)				118 (1)
43	2	79	37 (2)				116 (2)
44	3	70	31				101
45	4	67	37 (1)				104 (1)
46	5	55	36		33		124
47	6	82	39 (1)		34 (1)		155 (2)
48	7	67	36 (1)		38		141 (1)
49	8	61	34 (1)		30		125 (1)
50	9	69	32 (1)		35		136 (1)
51	10	61	36		37		134
52	11	82	40		37		159
53	12	70	31		32		133
54	13	71	40		30		141
55	14	66	38		31		135
56	15	64 (1)	38		33 (1)		135 (2)
57	16	61	35		31 (4)		127 (4)
58	17	65	37		26		128
59	18	76	34 (1)		34		144 (1)
60	19	54 (1)	37		32		123 (1)
61	20	75	36		28		139
62	21	59	40		32		131
63	22	71	40		40		151
平成元	23	72	41 (1)		43 (1)		156 (2)
2	24	75	42		32		149
3	25	78	44 (1)		38 (1)		160 (2)
4	26	74	43 (1)		31		148 (1)
5	27	42 (1)	31 (1)	32 (8)	34 (2)		139 (12)
6	28	46	48 (1)	40 (12)	28 (2)		162 (15)
7	29	29 (1)	43 (2)	41 (10)	36 (3)		149 (16)
8	30	43 (1)	37 (2)	39 (12)	45 (3)		164 (18)
9	31	37 (1)	41 (4)	38 (16)	35 (7)		151 (28)
10	32	38	41 (1)	40 (12)	42 (6)		161 (19)
11	33	33	36 (6)	33 (11)	36 (6)		138 (23)
12	34	45 (3)	37 (5)	39 (12)	39 (12)		160 (32)
13	35	34	40 (1)	37 (14)	38 (10)		149 (25)
14	36	31 (3)	38 (7)	28 (9)	32 (5)		129 (24)
15	37	39 (1)	36 (5)	31 (11)	38 (13)		144 (30)
16	38	41 (2)	43 (6)	40 (16)	39 (11)		163 (35)
17	39	38 (1)	36 (4)	40 (17)	34 (14)		148 (36)
18	40	37 (1)	43 (4)	31 (8)	28 (8)		139 (21)
19	41	36	42 (2)	29 (10)	32 (9)		139 (21)
20	42	35	45 (5)	38 (7)	37 (6)		155 (18)
21	43	35	39 (4)	38 (15)	40 (7)		152 (26)
22	44	36	38	34 (11)	27 (7)		135 (18)
23	45	42 (1)	37 (2)	34 (17)	33 (11)		146 (31)
24	46	41	44 (8)	47 (10)	34 (9)		166 (27)
25	47	47 (4)	44 (2)	41 (10)	20 (3)		152 (19)
26	48	40	39 (5)	36 (9)	29 (4)		144 (18)
27	49	45 (4)	36 (9)	42 (3)	22 (7)		145 (23)
28	50	41 (6)	40 (6)	37 (4)	30 (9)		148 (25)
29	51	42 (7)	37 (6)	41 (9)	31 (7)		151 (29)
30	52	40 (2)	24 (1)	37 (8)	23 (9)	25 (11)	149 (31)
令和元	53	40 (7)	33 (7)	33 (5)	23 (6)	24 (5)	153 (30)
2	54	32 (3)	35 (7)	36 (8)	20 (7)	24 (5)	147 (30)
合計		2,889 (51)	2,055 (125)	1,032 (294)	1,642 (211)	73 (21)	7,691 (702)

令和3年度卒業予定者 (55回)

() 内は女子数で内数

卒業年度	回数	創造技術工学科 機械コース	創造技術工学科 電気コース	創造技術工学科 情報コース	創造技術工学科 建設コース	創造技術工学科 化学コース	合計
令和3年度卒業予定者	55	40 (4)	38 (5)	37 (3)	22 (8)	21 (7)	158 (27)
		機械工学科	電気電子工学科	制御情報工学科	建設システム工学科		1

(注) ① 平成元年度から機械工学科(2学級)を機械工学科(1学級)と制御情報工学科(1学級)に改組。② 平成5年度から土木工学科を建設システム工学科に改組。
③ 平成14年度から電気工学科を電気電子工学科に改組。④ 平成26年度から4学科を創造技術工学科1学科に統合。機械、電気、情報、建設、化学の5コース制に再編。

総会のお知らせ

2022年8月12日、下記のとおり総会を開催します。ふるってご参加ください。

※但し、新型コロナウイルス感染拡大状況により中止になる可能性があります。開催の有無については決定次第、阿南高専ホームページ上でお知らせいたしますので、事前にご確認ください。

講演会

10:30 受付
11:00～12:00 講演会

講師：JR徳島駅ビル開発株式会社
代表取締役社長 大島 雅 緒 氏 (10M)
場 所：阿南工業高等専門学校 管理棟 3F会議室

総会

12:00～12:30 総会
12:30～14:00 名誉教授の先生方との合同食事会

場 所：阿南工業高等専門学校 高志会館

会場案内

駐車は噴水の周りの空いているスペースをご利用ください。



講演会・総会
3F会議室 11:00～12:30

食事会
12:30～14:00

寄付金募集のお知らせ (阿南高専悠久同窓会)

悠久同窓会会則第13条(本会の経費は会費、寄付金、その他の収入をもってあてる)の規程により寄付金を募集しております。諸経費高騰で悠久同窓会の財政も苦しい折、広く御協力をお願い申し上げます。

送 り 先 阿南市見能林町青木 265
阿南高専内悠久同窓会事務局

振込の場合 郵便局振込
コンビニ振込
銀行振込 徳島大正銀行 阿南支店 普通
口座番号 8594442
阿南工業高等専門学校悠久同窓会